2024年9月28日

令和6年度　しまねの古代文化連続講座（東京）

6世紀～7世紀の石見・出雲

―古墳からみた地域色と交流―

松江市文化スポーツ部
文化財総合コーディネーター
丹羽野　裕

本講の趣旨

- 「令和6年度は、山代二子塚（松江市）・今市大念寺古墳（出雲市）など大型古墳が国の史跡指定100年を迎えることを記念し、「しまねの古墳」をテーマに講座を開催します。」
- 報告者に課せられたテーマは古墳時代後期
- 島根県は旧国「石見」「出雲」「隠岐」の三国
- そこから石見と出雲を取り上げて、お話しをします。

国土地理院地図HPより引用改変（以下同じ）

１．石見と出雲

- 島根県は東西に長い県
- 日本海に面し、北部九州や大陸に近い地勢
- 東側が「出雲国」、西側が「石見国」だった
- 隣り合うが地域性は相当異なる（現在も）
- 石見は最西部の益田地域、出雲は出雲の中央部・松江市を取り上げて両地域の特徴に迫りたい

隠岐
松江地域
出雲
石見
益田地域
島根
広島
20 km

石見国

２．益田地域の後期古墳

２．益田地域の後期古墳

（１）特徴的な群集墳、鵜ノ鼻古墳群

鵜ノ鼻G-1号墳から海上を望む

鵜ノ鼻G-1号墳　墳丘と横穴式石室

鵜ノ鼻古墳群の位置

鵜ノ鼻古墳群
鵜ノ鼻
石見津田駅
烏帽子山
338
山陰本線
遠田ＩＣ
E9
久城ＩＣ
高津川
益田市
9
高津ＩＣ
益田駅
鯨瀧湖
E9
56
石見空港
萩・石見空港ＩＣ
比礼振山
359
191
須子ＩＣ
9
本俣賀駅
1 km

鵜ノ鼻古墳群の特徴（１）

・明らかに、海上からの景観を意識して築造している

〇西から砂浜が続く益田地域の海岸線で、最初に突出した小半島（鼻）に群集して立地

〇海岸の目の前に3基の古墳（最も海に近い古墳だろう）

〇古墳からも海を見渡す立地

鵜ノ鼻古墳群　海岸縁の古墳付近からのパノラマ写真

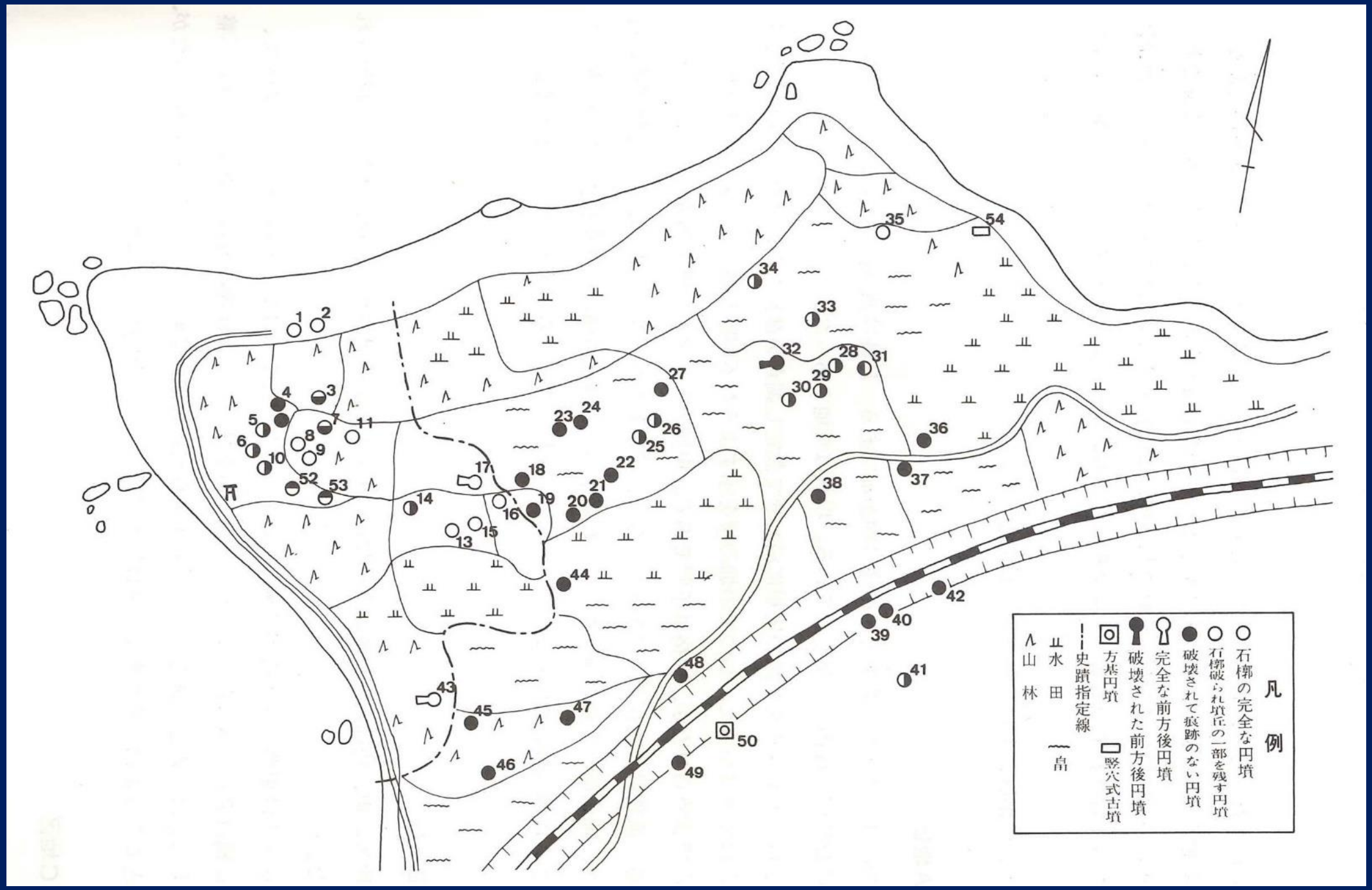
海上交通や水運にかかわる集団の古墳群

鵜ノ鼻G-2号墳から海を望む

鵜ノ鼻G-12,G-13,G-14号墳

鵜ノ鼻G-43号墳周辺から見た海
遠くに見えるのは山口県須佐

鵜ノ鼻古墳群弥富熊一郎氏作成分布図



益田市教育委員会1984
『鵜ノ鼻古墳群発掘調査概要』より

鵜ノ鼻古墳群の特徴（２）

- 狭い範囲に数多くの古墳（横穴式石室）が築かれる

〇戦後間もない郷土史家、弥富熊一郎氏の踏査では53基

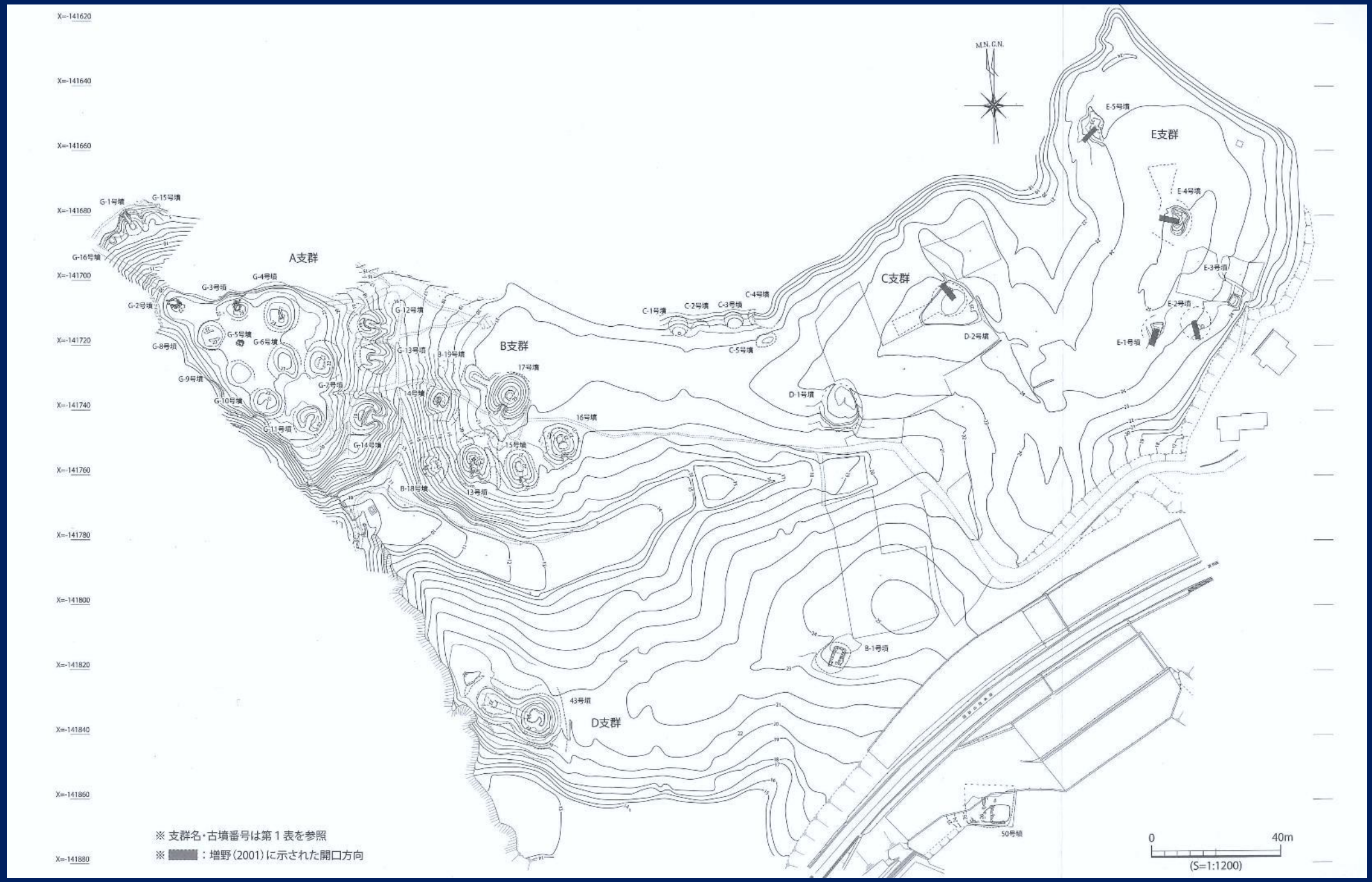
〇近年の調査で弥富氏の分布に重ならない古墳が14基判明

鵜ノ鼻17号墳　横穴式石室

鵜ノ鼻G-6号墳からG-3,G-8号墳を望む

鵜ノ鼻G-12,G-13,G-14号墳

鵜ノ鼻古墳群測量図（２０１５年）



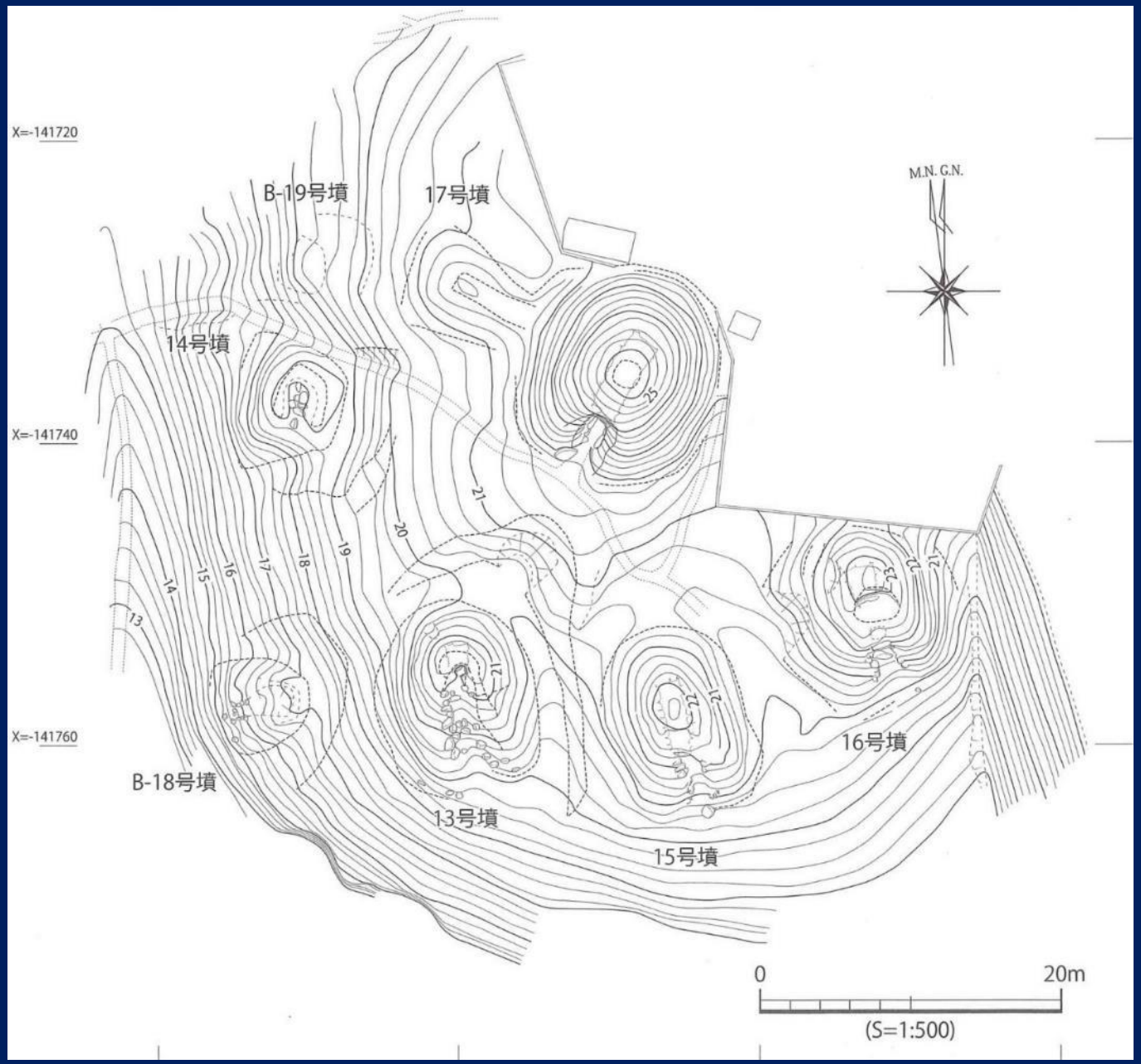
島根県古代文化センターほか２０１５『益田市内における古墳の調査』より

鵜ノ鼻古墳群の特徴（３）

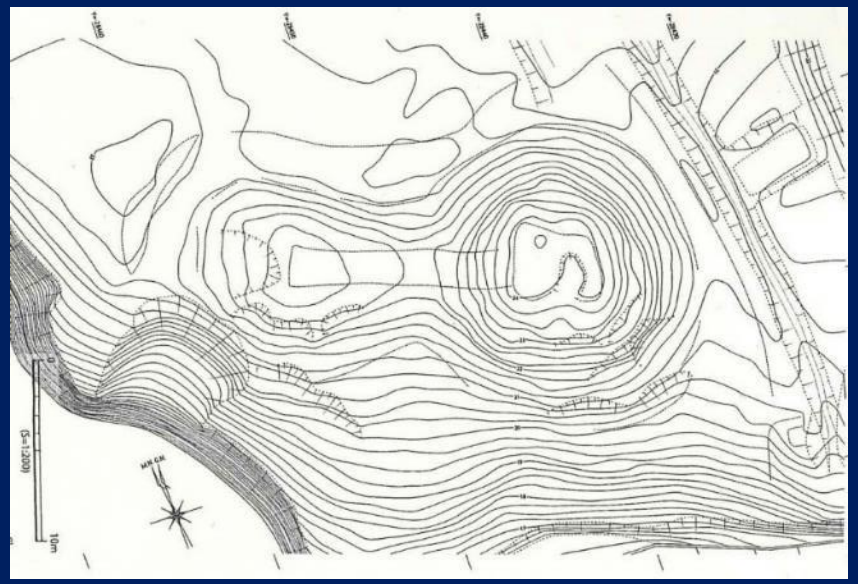
- 前方後円墳が４基含まれること
  17号墳23m、D-2号墳27m
  E-4号墳26m、43号墳27.5m

- 他の大部分が円墳で、墳丘や石室に規模の差があること

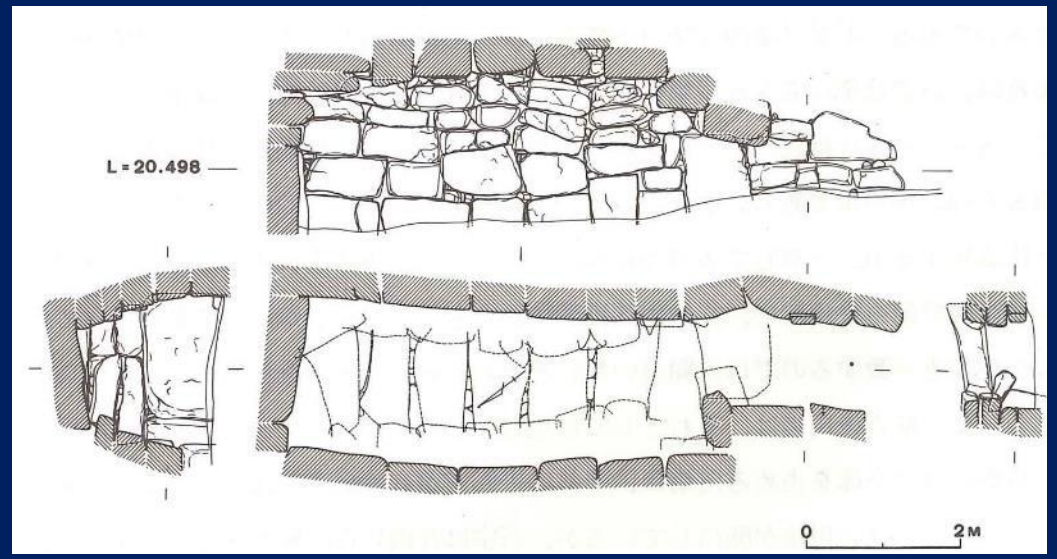
- 方墳が少なくとも２基見られること…おそらく終末期古墳



鵜ノ鼻B支群のなかの前方後円墳（17号墳）



鵜ノ鼻43号墳



鵜ノ鼻17号墳　横穴式石室実測図

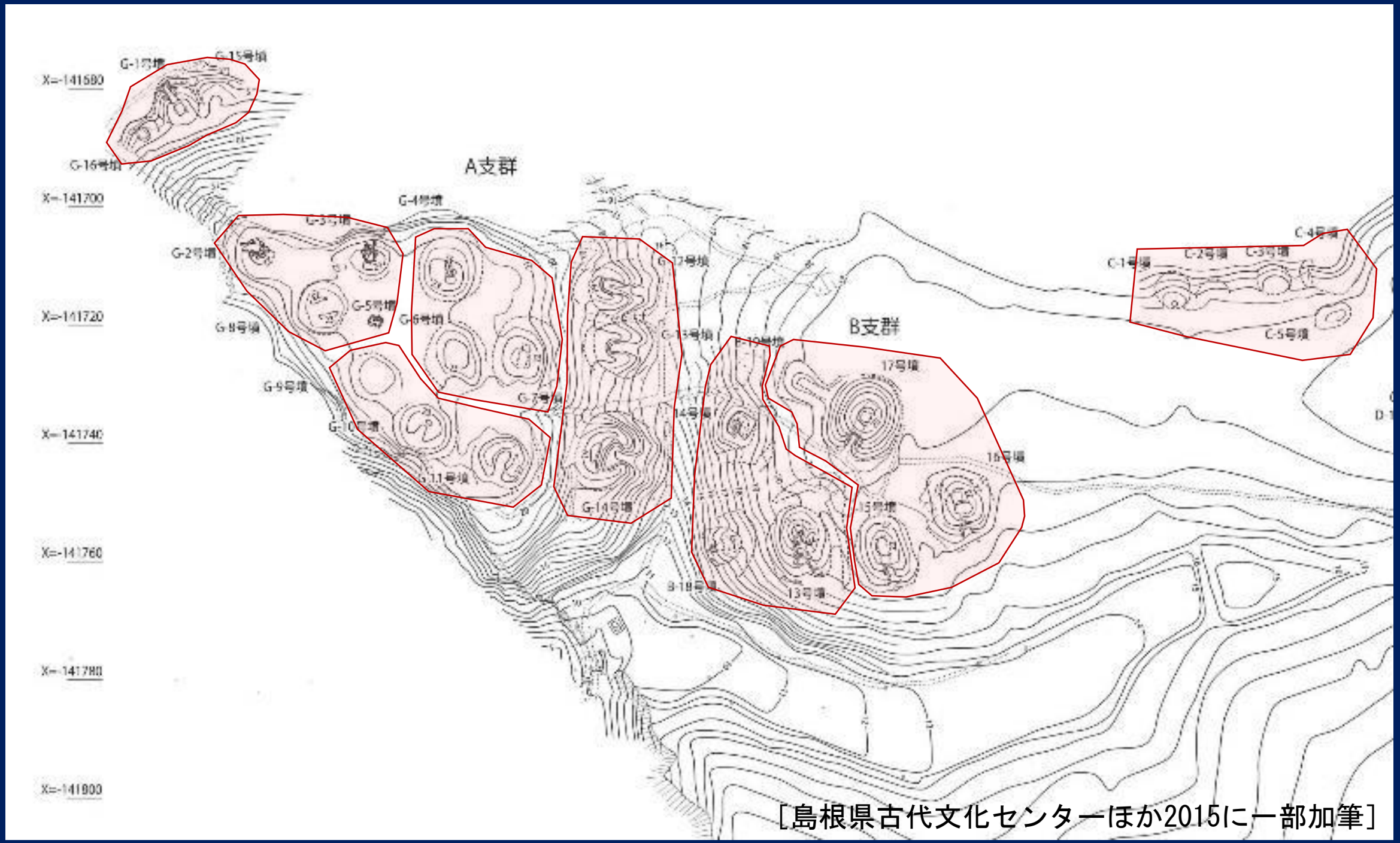
[図はいずれも島根県古代文化センターほか2015より]

鵜ノ鼻古墳群の特徴（４）

〇一定のグループ、小群に分かれて築造

〇おおむね３基～４基が一つの小群となり、それらをあわせた支群（グループ）の中に前方後円墳が含まれる

鵜ノ鼻17号墳（前方後円墳）と15号、1号墳　パノラマ写真



［島根県古代文化センターほか2015に一部加筆］

鵜ノ鼻古墳群の特徴と群構成を分析する

〇3基～4基程度で小群を構成するのは、後期の群集墳の全国的特徴

〇一定の墓域に、有力世帯共同体（大きな家族）が代々古墳を築造

〇鵜ノ鼻古墳群が60基とすると、4で割れば15の小地域の代表が古墳を作っていると推測できる

〇そのうち、前方後円墳を最初に作った４集団が、一定地域を束ねる有力集団か

鵜ノ鼻古墳群周辺の古墳から

〇古墳時代前期前半‥‥四ツ塚1号墳

　　20m程度の円墳、三角縁神獣鏡出土（石見唯一）

〇古墳時代前期後半‥‥大元1号墳

　　全長85mの大型前方後円墳

〇古墳時代前期後半‥‥スクモ塚古墳

　　全長100ｍの大型前方後円墳（島根県最大）

〇古墳時代中期‥‥判明しているもので最大は金山古墳

　　20mの円墳に造出と葺石

〇古墳時代後期前半‥‥小丸山古墳

　　全長52mの前方後円墳で、周堤をもつ。

大元1号墳（益田市遠田町）

全長85mの前方後円墳
葺石を施し、埴輪が見られる
前期末（4世紀）の築造

［写真はいずれも益田市教育委員会提供］

スクモ塚古墳（益田市久城町）

［写真はいずれも益田市教育委員会提供］

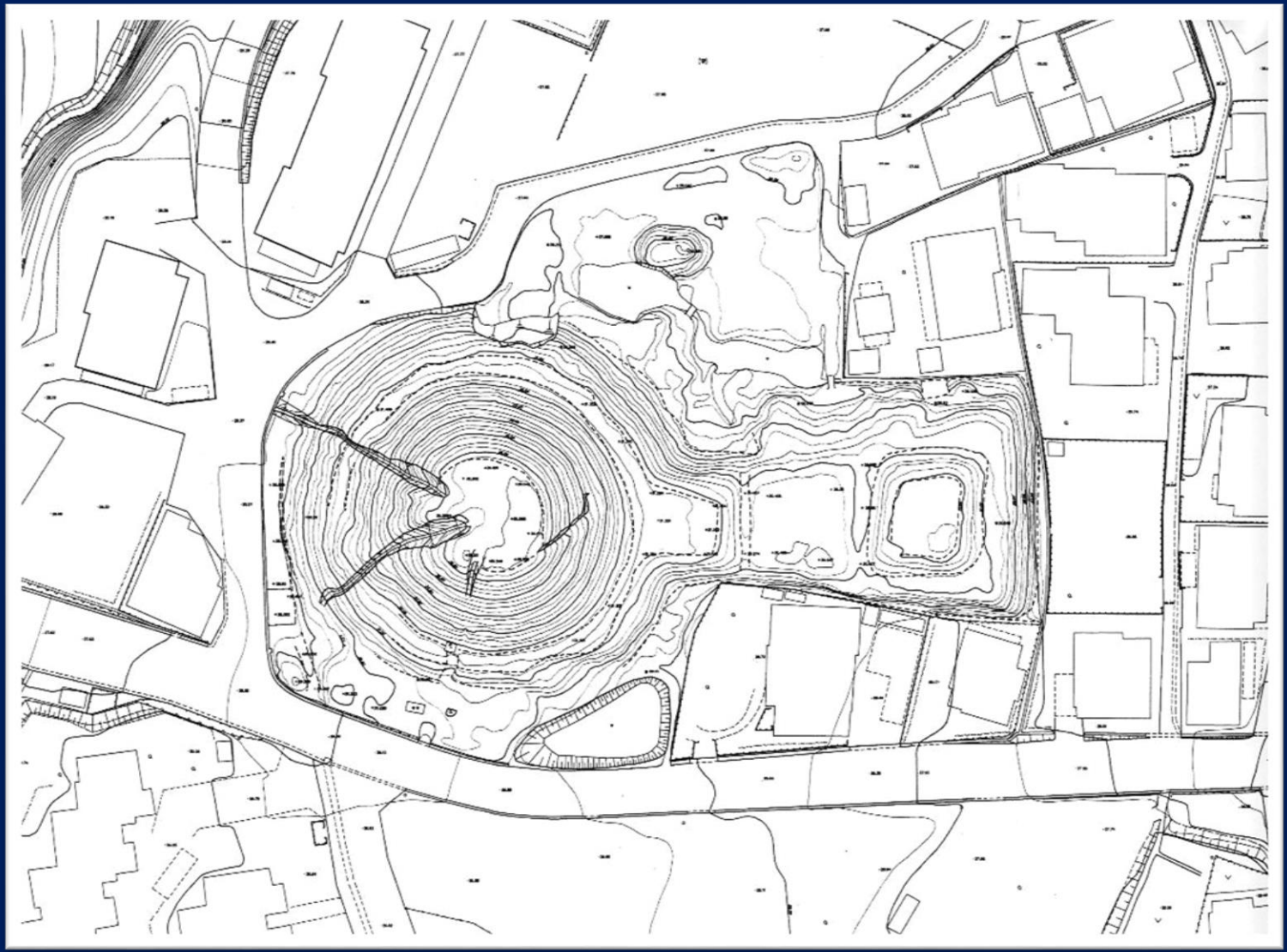
スクモ塚古墳（益田市久城町）

全長約100mの前方後円墳

葺石を施し、埴輪をめぐらす

前期末(4世紀)の築造

渋谷向山（しぶたにむかいやま）古墳（景行陵古墳）と同規格か



［池淵俊一・丹羽野裕2008、
益田市教育委員会2024より］

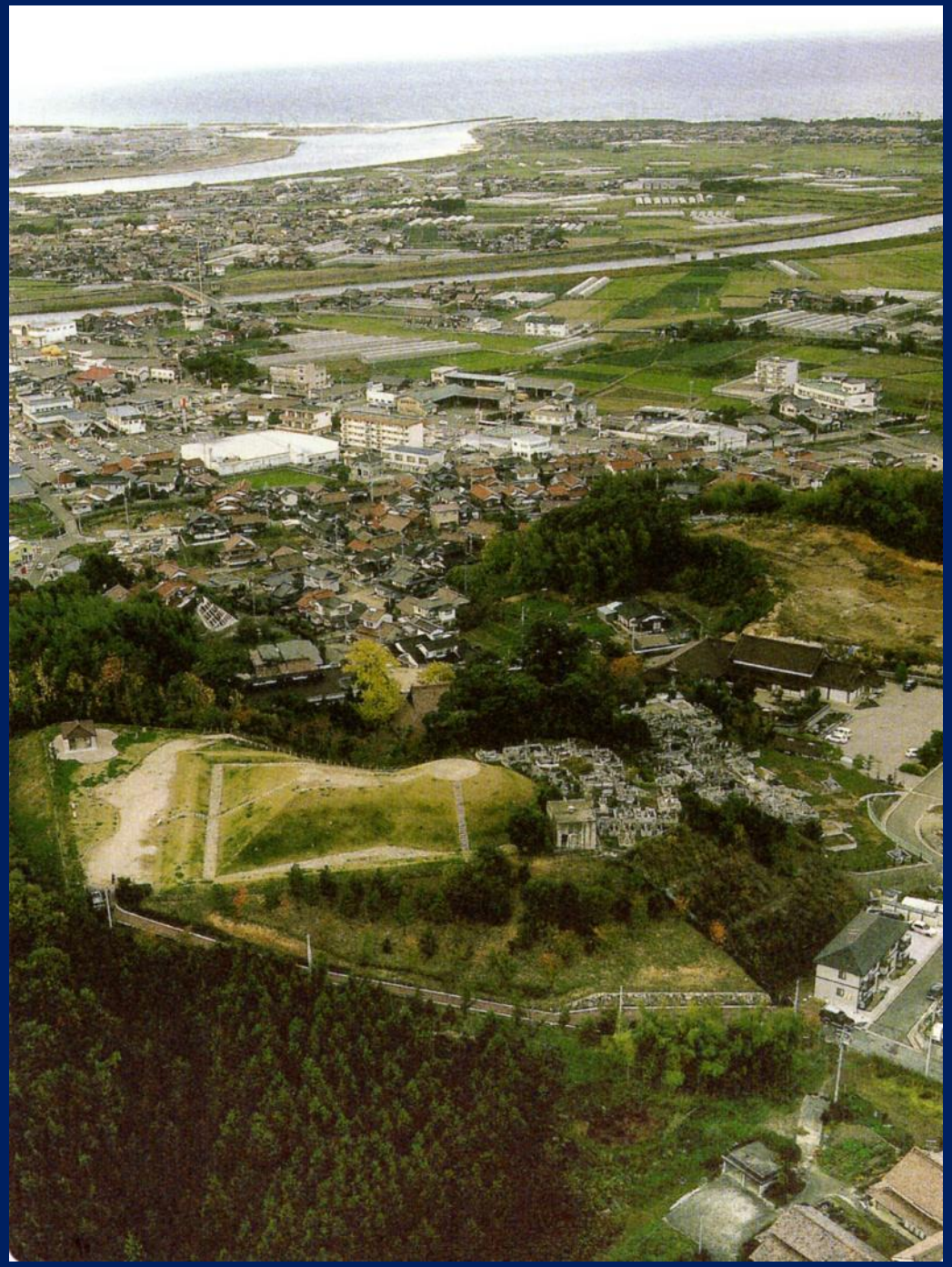
小丸山古墳（益田市下本郷町）

全長52mの前方後円墳

葺石を施し、墳丘の周りに外堤を備える

鏡（珠文鏡）、馬鐸・鈴杏葉などの特徴的な馬具や鉄刀、鉄剣などが出土

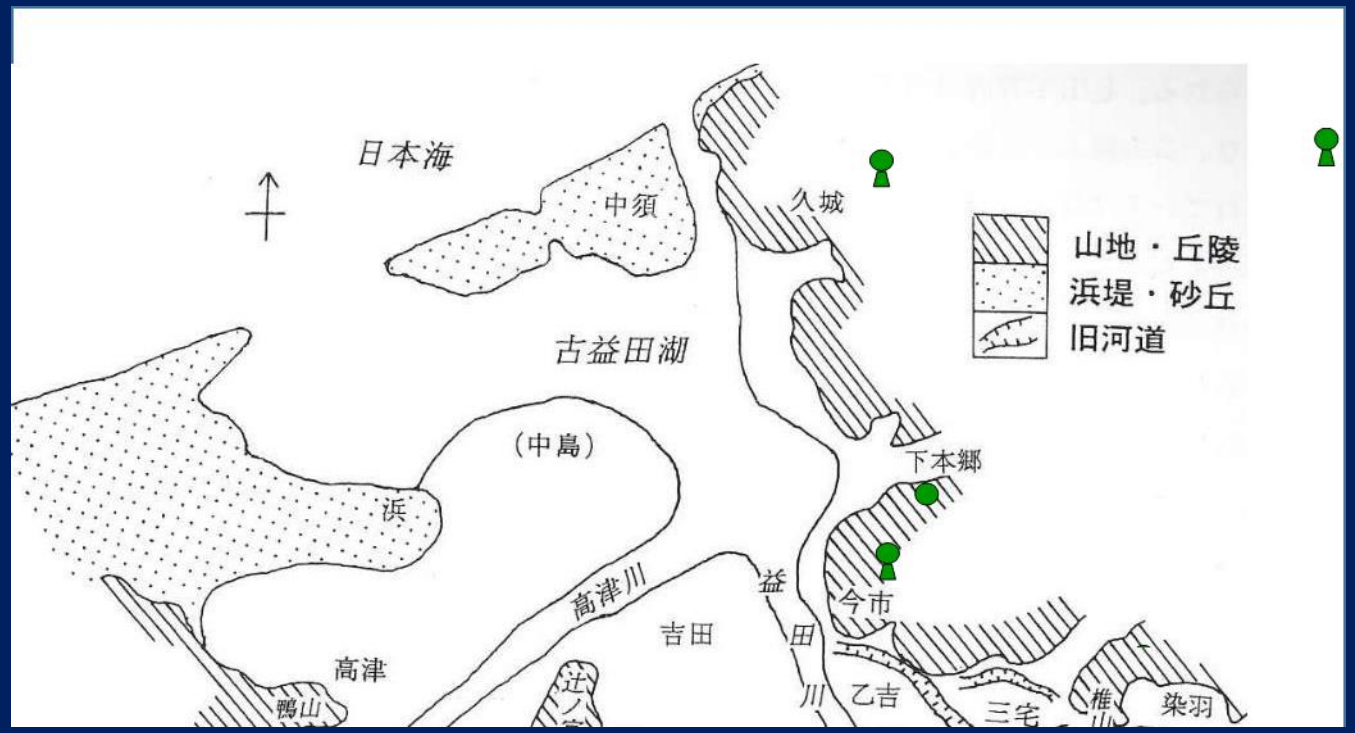
後期前半(6世紀前半)の築造



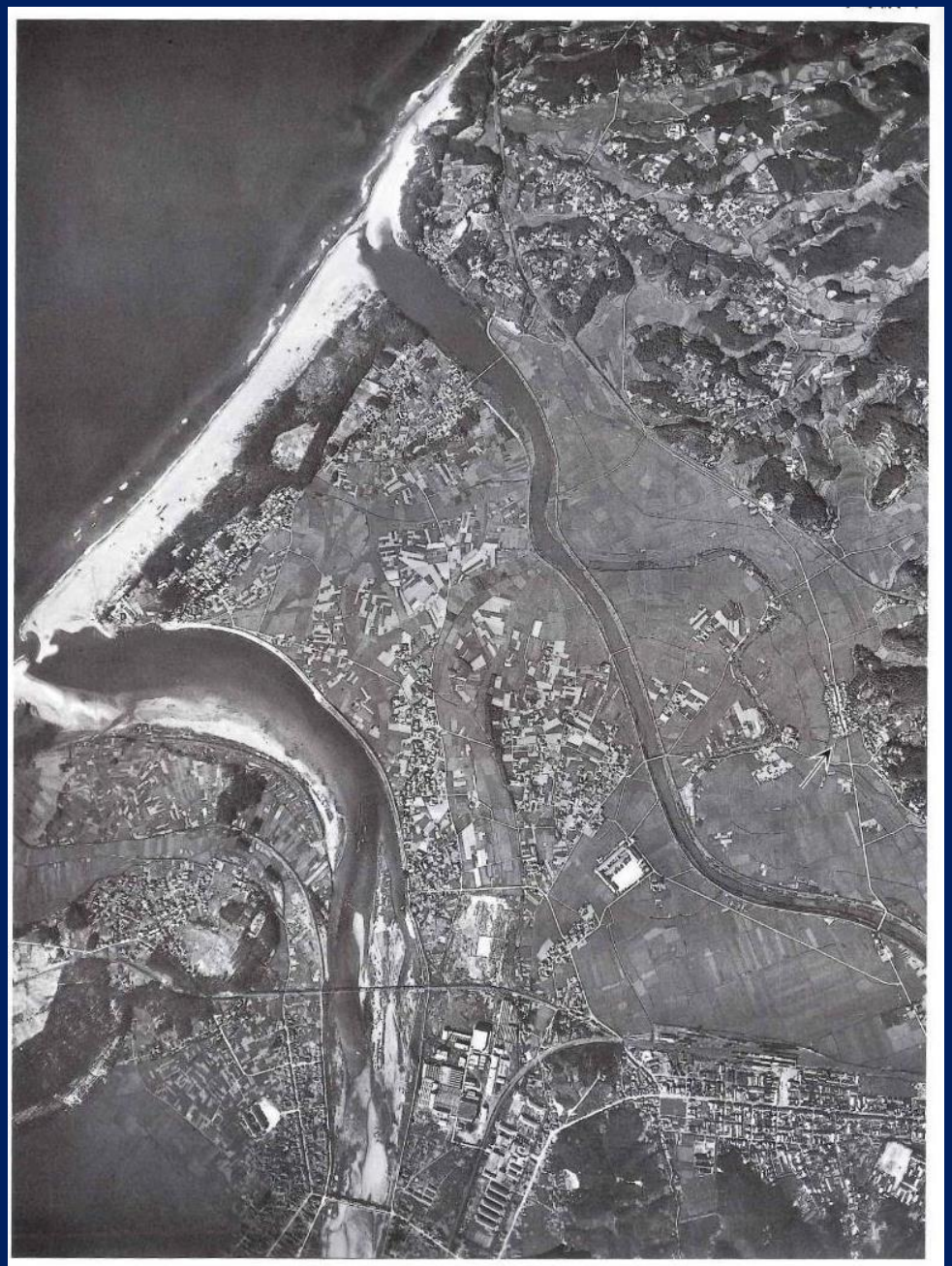
[写真はいずれも益田市教育委員会提供]

有力古墳の分布の特徴から

〇益田地域東北部の丘陵上に展開
〇日本海を望む
〇当時潟湖だった古益田湖を望む



古代～中世の旧益田湖復元図と有力古墳の分布
［林正久2000を一部改変］



昭和22年　米極東空軍撮影空中写真（矢印が今市）

［益田市教育委員会2000より］

有力な古墳の分布の特徴から

〇波が静かで舟が停泊しやすい潟湖（古益田湖）を津として、日本海交通や交易の利を手にした集団の代表が、大型前方後円墳などを築いた。

〇古益田湖の縁辺や、比較的広い谷底平野を生産基盤としている。

〇鵜ノ鼻古墳群は、大型古墳を築造する首長を支えていた集団が、海を象徴する一か所に集まって群集墳を形成

〇鵜ノ鼻の前方後円墳を築いた４集団のどれかが、前代までの大型古墳被葬者層を輩出していたと考える。

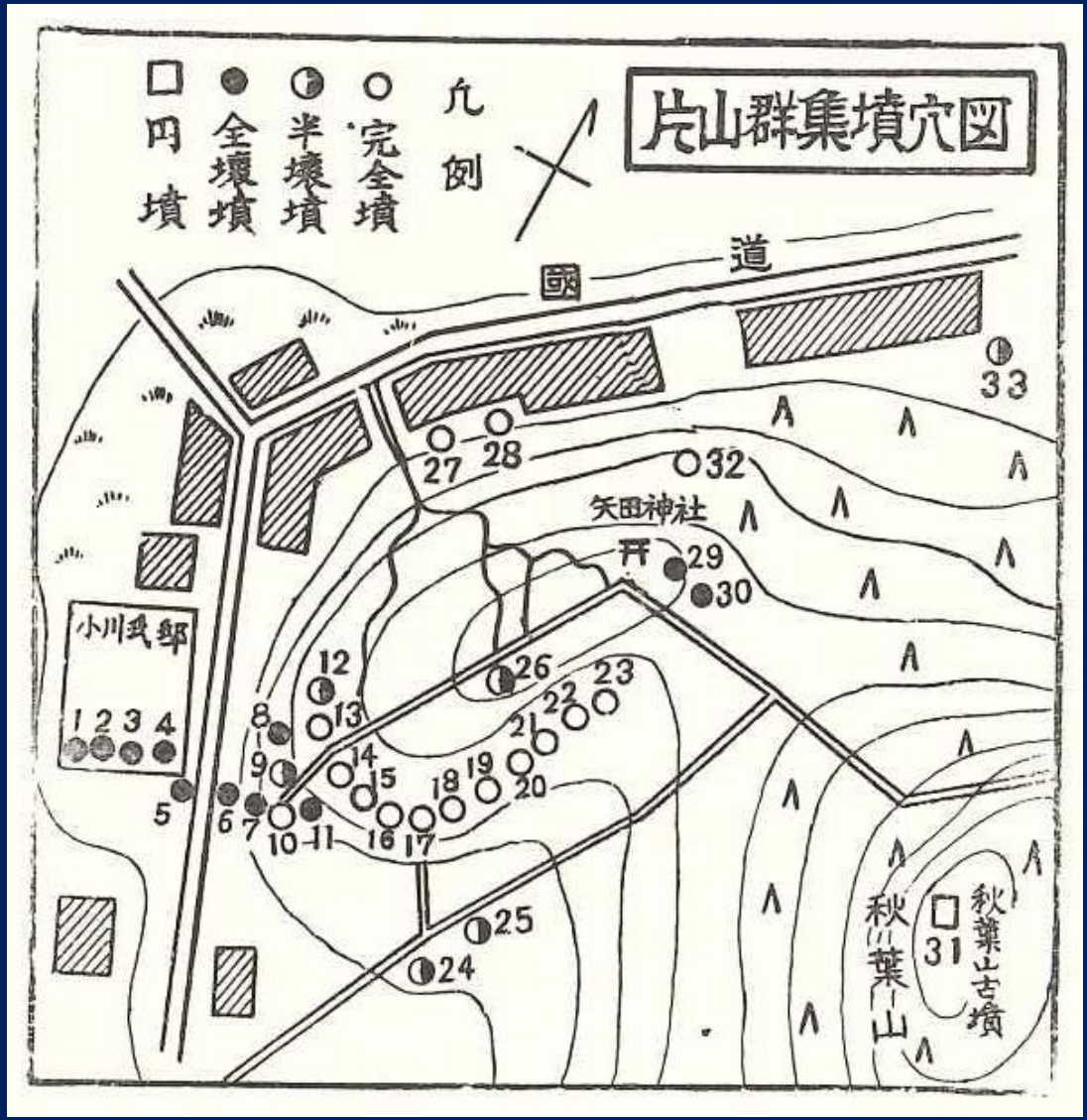
（２）横穴墓の展開

〇益田地域では、鵜ノ鼻古墳群と同時期に、多くの横穴墓が築かれている。

益田川下流域盆地の横穴墓群			
	横穴墓群名	**所在地（地区）**	穴数
1	**片山横穴墓群**	染羽地区	32
2	蔵ノ隘横穴墓群	多田地区	8
3	三井裏山横穴墓群	上吉田地区	3
4	**元日赤横穴墓群**	下吉田地区	2
5	北長迫横穴墓群	下吉田地区	43
6	南長迫横穴墓群	下吉田地区	16
7	**小堤横穴墓群**	下吉田地区	3
	合計		107

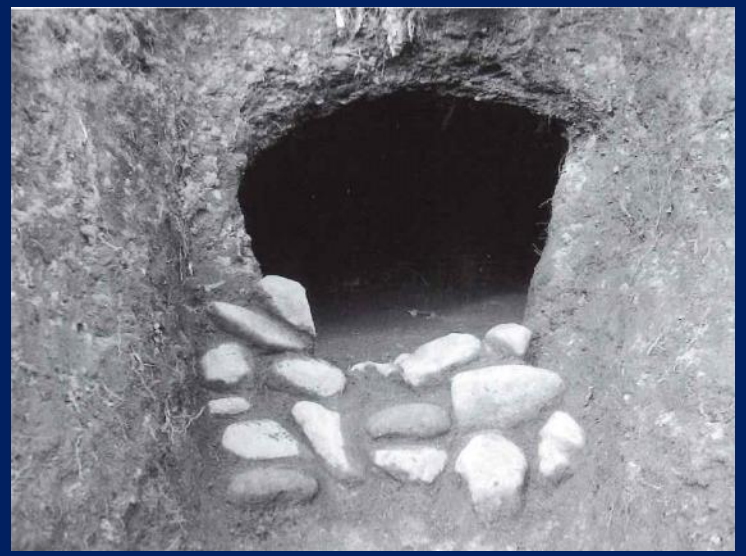
片山横穴墓群・秋葉山古墳（益田市染羽町）

小型横穴式石室を持つ秋葉山古墳（円墳、丘陵の頂上）を嚆矢に、斜面に32穴の横穴墓群が知られる。

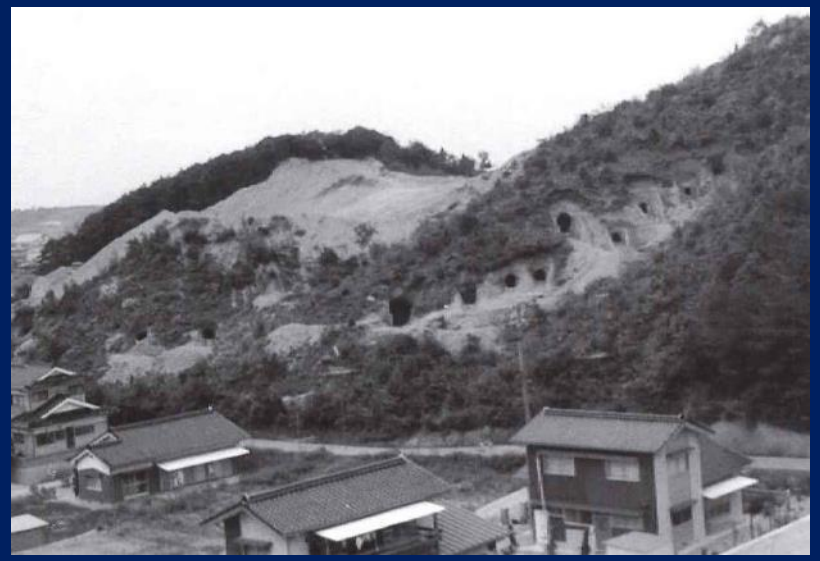


片山横穴墓・秋葉山古墳分布図［弥富熊一郎1962］

北長迫横穴墓群



北長迫横穴墓群２次調査６号穴



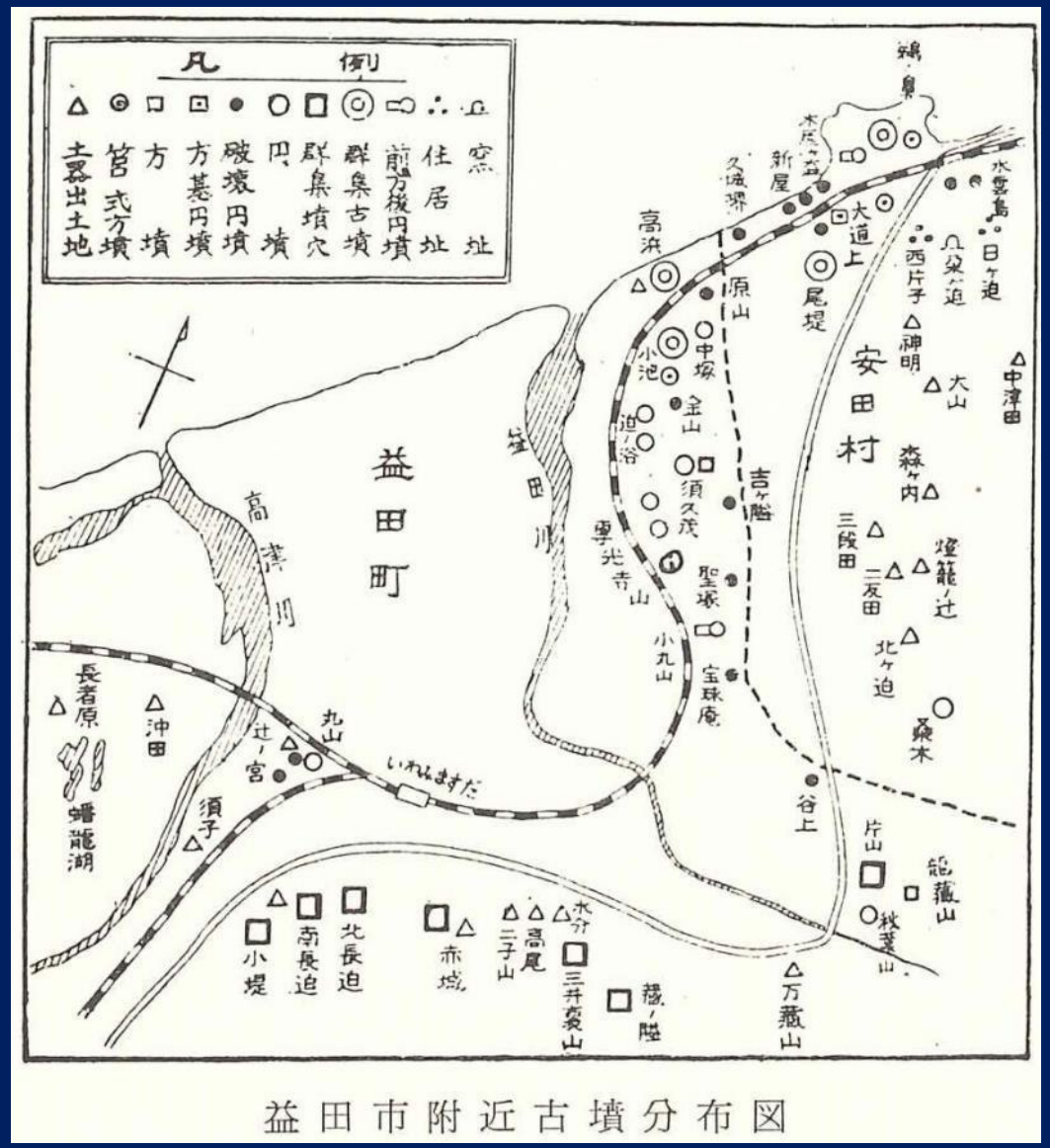
北長迫横穴墓群Ⅲ群全景

６号穴玄室内遺物出土状況

８号穴玄室内遺物出土状況

［写真・図は益田市教育委員会1992、
島根県古代文化センターほか2015より］

益田地域の主要な古墳と横穴墓群の位置

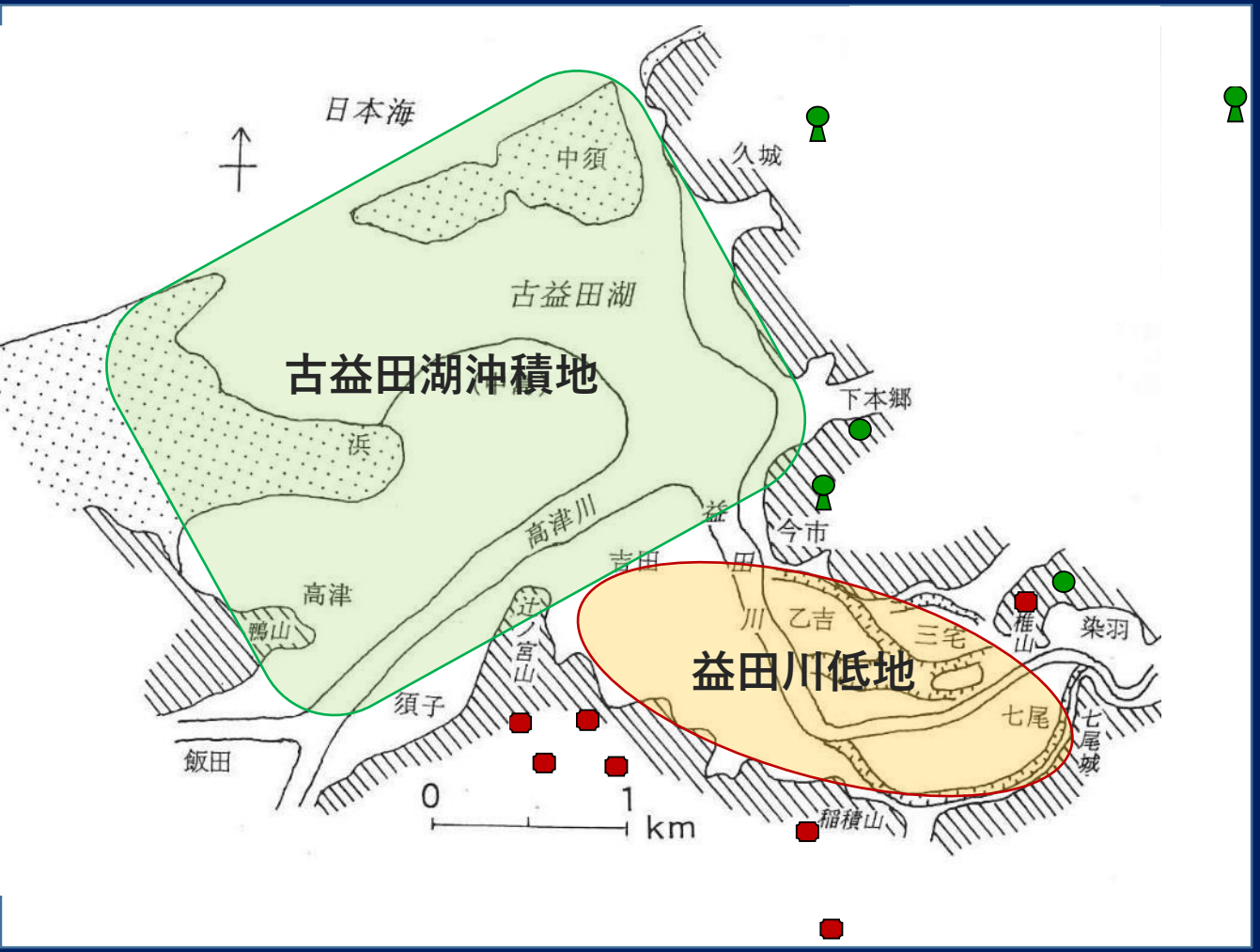


益田市周辺の古墳・横穴墓分布図［弥富熊一郎1962］

(3) 益田の平野二地域と古墳分布

○外海に面して広がる古益田湖（潟湖）が埋まった平野

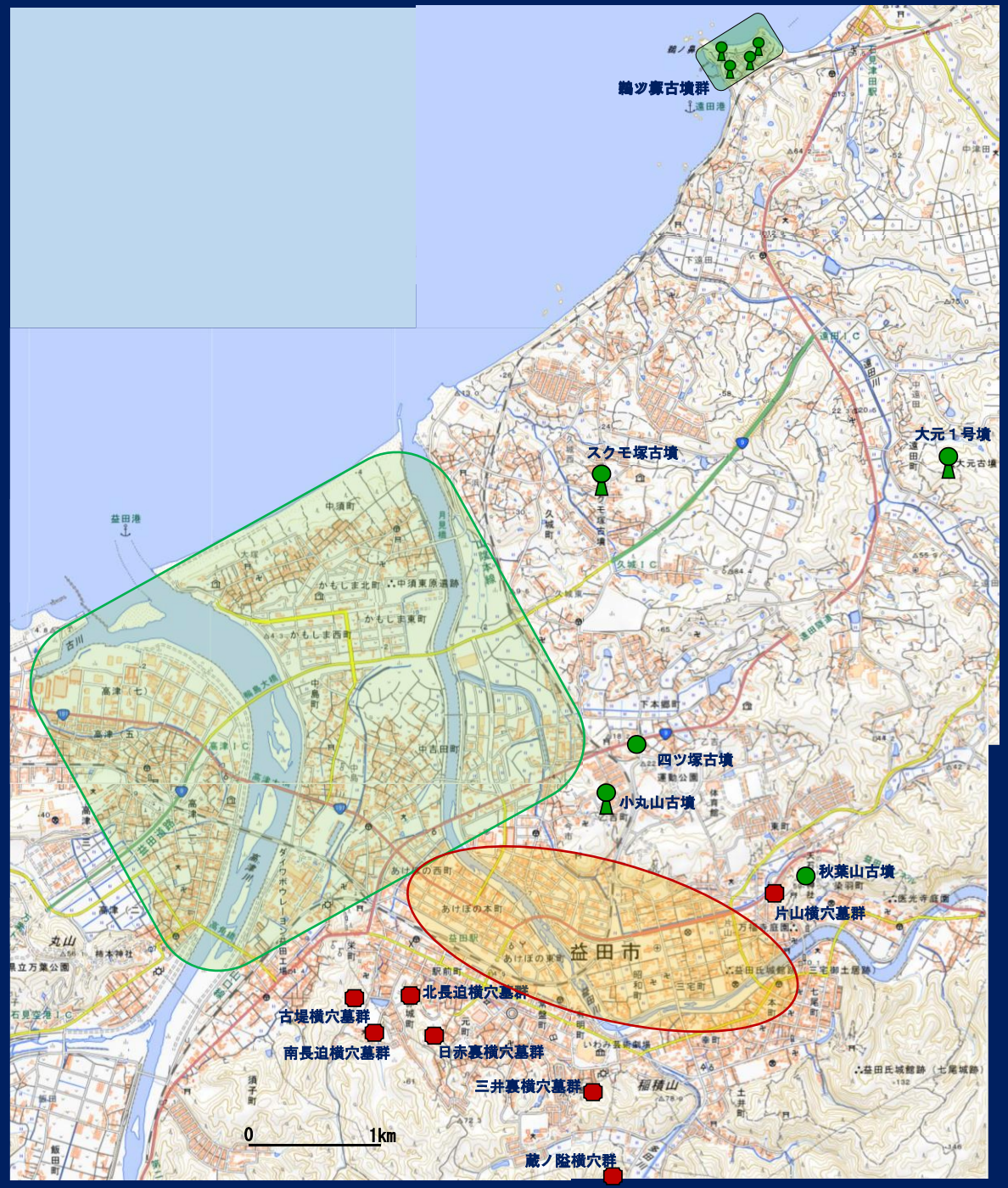
○益田川が蛇行して平地に出る、三方を山に囲まれた盆地状平地



古代～中世の旧益田湖復元図［林正久2000を引用改変］

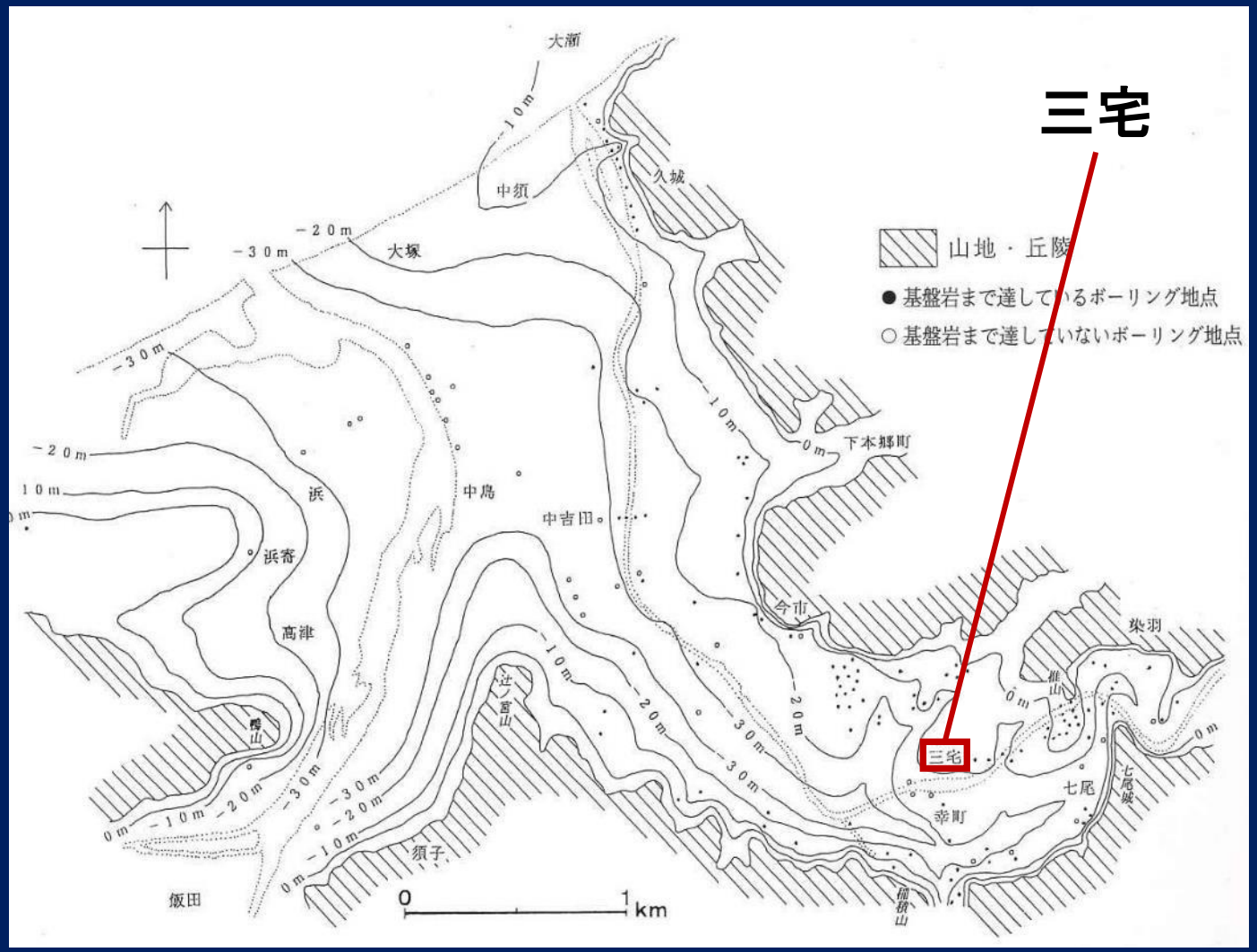
(3) 益田の平野二地域と古墳分布

- 鵜ノ鼻古墳群と益田川低地の横穴墓群は同時期に築かれている
- 鵜ノ鼻古墳群は、前の時代からの海や古益田湖沖積地に面して築かれた伝統的勢力
- 横穴墓は、益田川低地を新たに開発した集団の墓ではないか
- 6世紀後半に来た新集団は何者？



益田川低地で横穴墓を作った集団の正体は？

- 益田川低地の中央東側に「三宅」地名が存在
- 「屯倉（みやけ）」が設置された可能性
- 屯倉は、6世紀ころから地方各地に設定された、大王家の直轄的拠点
- 新たな開発を伴う場合も多いとされる



益田平野地下の基盤岩の地形［林正久2000を引用改変］

益田川低地で横穴墓を作った集団の正体は？

〇中世益田の様相が参考となる

〇三宅町には中世前期に益田庄政所が、中世後期に益田氏の居館（三宅御土居）が置かれた。

〇三宅御土居周辺は、益田川低地の灌漑水路の結節点
　　三宅御土居跡からは古代瓦や6世紀後半の須恵器も出土

〇古い水源は天染羽石勝神社付近という説もある。

〇天染羽石勝神社の背後丘陵に、秋葉山古墳と片山横穴墓群が存在

国立歴史民俗博物館2020『中世益田現地調査概報』Vol.3を引用改変

秋葉山古墳と片山横穴墓群

〇秋葉山古墳と片山横穴墓群は益田川低地の拠点に至近

〇秋葉山古墳は益田川低地周辺で、知りうる唯一の墳丘のある横穴式石室

→入植集団のリーダーが被葬者か

〇片山横穴墓群はリーダー直属の有力構成員とその子孫の墓か

〇南側丘陵の横穴墓群、各小地域の屯倉に奉仕する集団の墓か

秋葉山古墳
片山横穴基群
三宅御土居跡
北長迫横穴基群
古堤横穴基群
南長迫横穴基群
日赤裏横穴基群
三井裏横穴基群
蔵ノ隠横穴群
益田市
0
1km

(3) 益田の後期古墳　小結

①6世紀後半には、墳丘と石室を持つ群集墳と、横穴墓を作る集団が並立

②群集墳を築いたのは、伝統的な古益田湖沖積地とその東部の集団と考えられる。

③横穴墓を築いたのは、新たに益田川低地に設置された屯倉に奉仕する集団と考えられる。

④益田地域の古墳は、古代国家誕生黎明期の地域の在り方を考える絶好の材料

出雲国

３．松江地域の後期古墳

３．松江地域の後期古墳

山代二子塚古墳と後期古墳が集中する松江南部を取り上げたい。

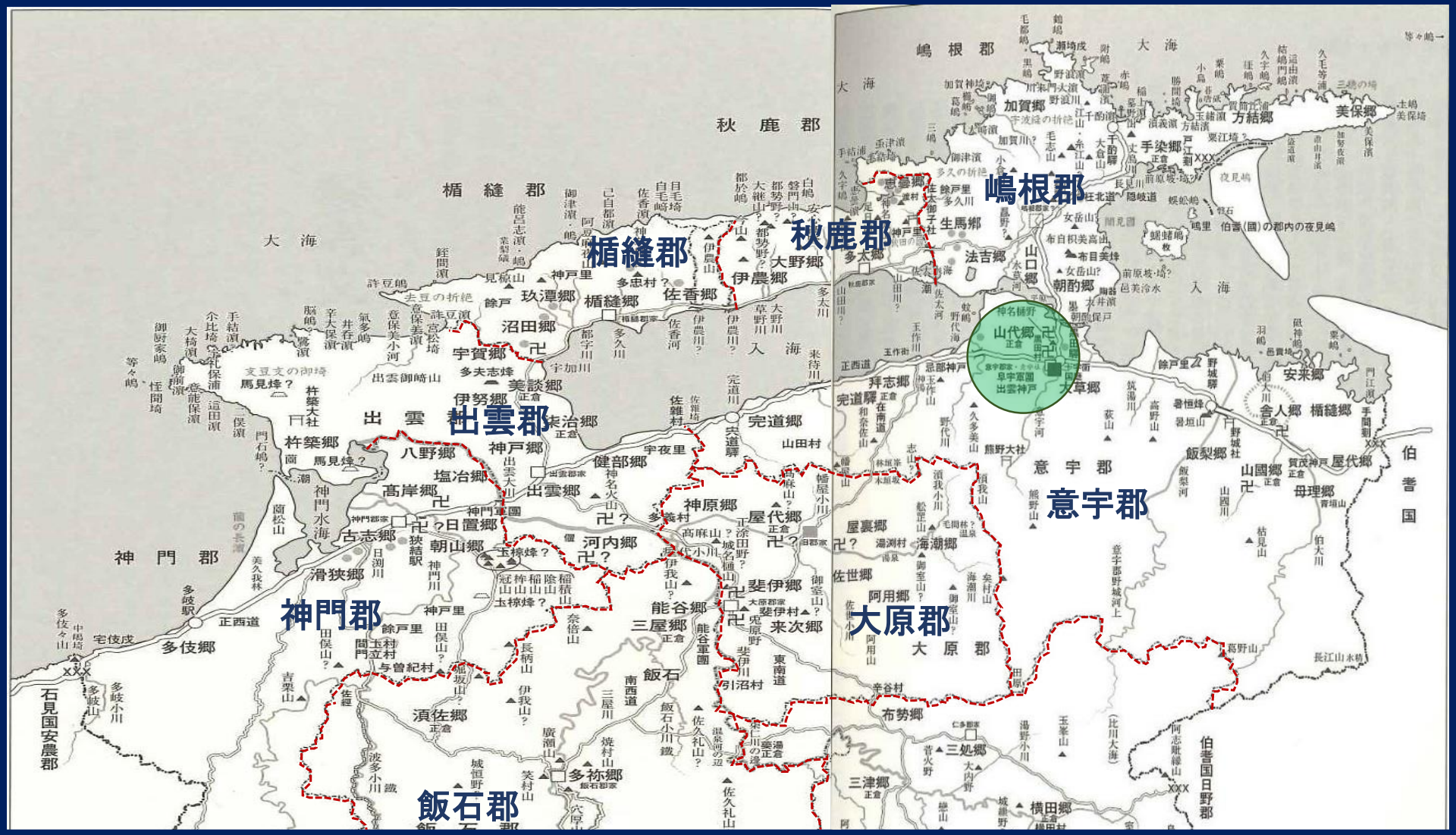
山代二子塚古墳（松江市山代町）

松江南部とは

○旧出雲国沿岸部の東部、意宇郡の中心地

○のちに出雲国府などが置かれる

○西部にも有力勢力



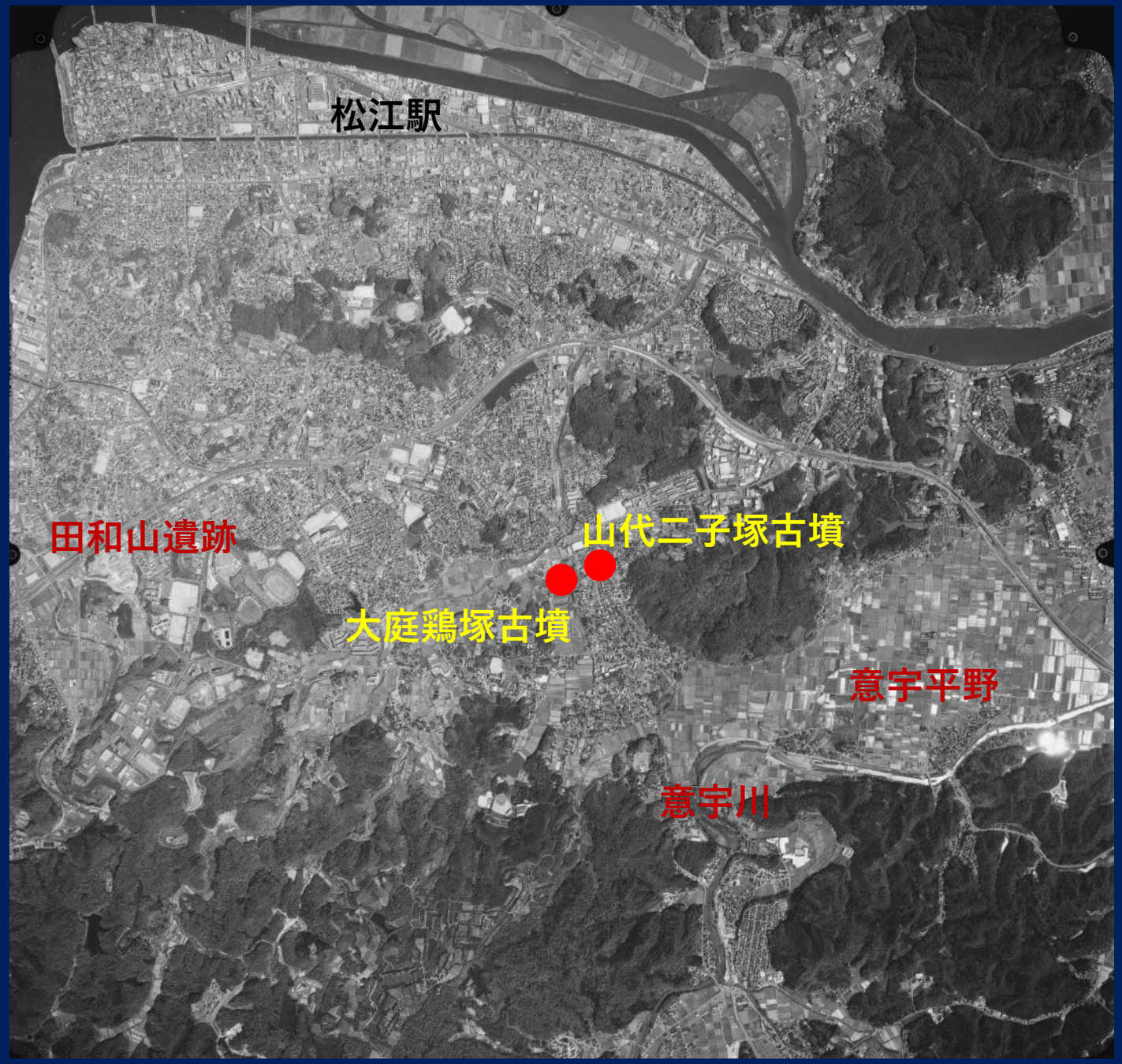
［島根県古代文化センター 2023より］

（1）山代二子塚古墳の概要

位置

・松江市の南郊、茶臼山の西麓

・意宇平野の北西台地



［国土地理院HPより］

古志原（五）
馬橋川
井手平
内陸工業団地
矢田町
上竹矢
竹矢IC
武内神社
宮内
中竹矢
竹矢町
古志原（六）
山代町
来美
山代神社
山代方墳
山代二子塚
大庭鶏塚
長者原
茶臼山
△171.4
後分
山崎
出雲国分寺跡附古道
三軒家
出雲国山代郷正倉跡
東出雲町今宮
松江市
黒田畦
団原
中島
出雲国府跡
岡田山古墳
風土記の丘
大草町
神魂神社
意宇川

北西から見た山代二子塚古墳・大庭鶏塚古墳と茶臼山（神名樋野）

山代二子塚古墳測量図
［渡邊貞幸1983］

（１）山代二子塚古墳の概要

1993～95年、
2000年の発掘調査

- 範囲確認と墳丘構造確認
  1～11トレンチ

- 整備のための調査
  12～15トレンチ

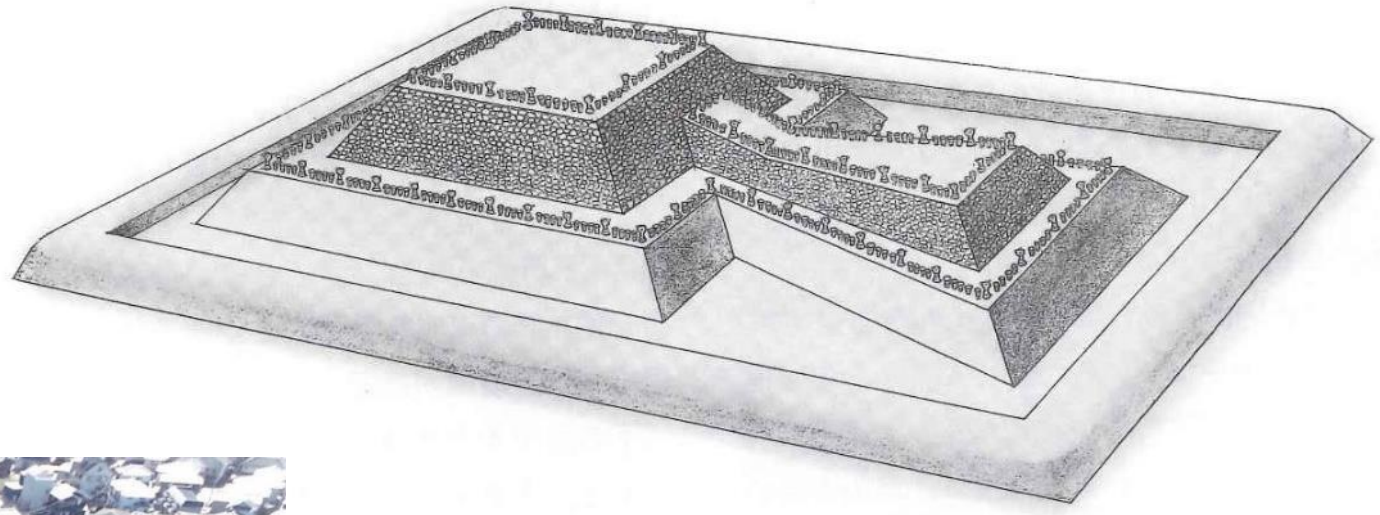
［島根県教育委員会1992より］

発掘調査の結果

- 復元全長94mの前方後方墳
- 後方部の約3分の1が削られている
- 墳丘の周りに周溝、外堤が廻る

［島根県教育委員会2001より］

山代二子塚古墳の復元



山代二子塚古墳復元想定模式図

［図・写真ともに
島根県立八雲立つ風土記の丘2007より］

山代二子塚古墳からの出土遺物と古墳の時期

１．埴輪

〇円筒埴輪…三条四段の大型品

近くの御崎山古墳や岡田山1号墳より古い特徴

〇形象埴輪…四足獣、家、人物

詳細は不明だが、5世紀後半に途絶えたものが復活

２．須恵器

〇出雲型子持壺

最初に定型化、周辺の古墳出土の同様な品の中で最古

墳丘の各所で用いられた、出雲東部独自の祭祀須恵器

○円筒埴輪…三条四段の大型品

○出雲型子持壺…古い型式、新たな祭式の創出

円筒埴輪（左：報告者撮影、右：島根県教育委員会提供）

出雲型子持壺（左：報告者撮影、右：島根県教育委員会提供）

○山代二子塚古墳の築造時期

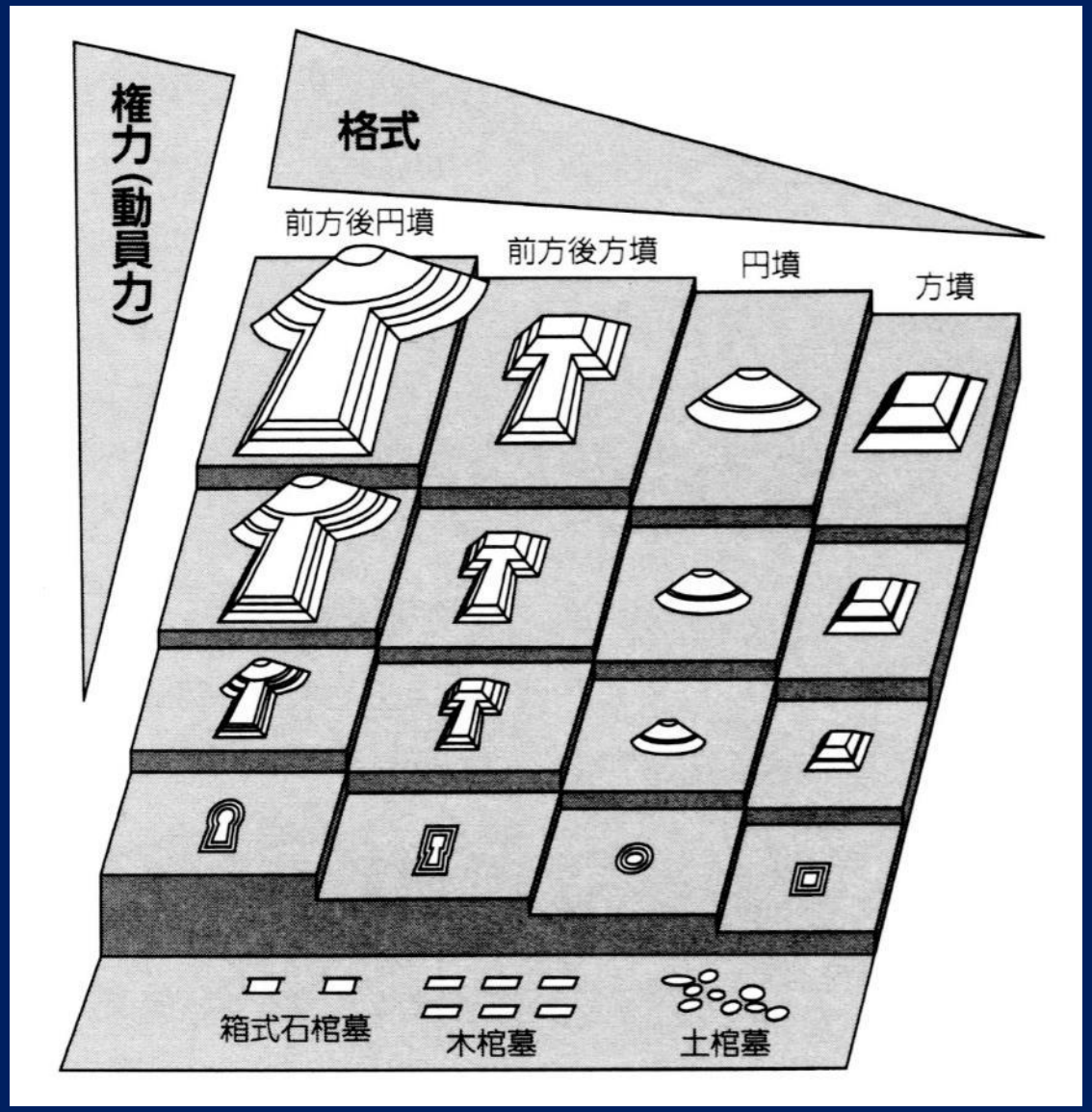
・出土した遺物の特徴から6世紀中ごろと考えられる。

8世紀	7世紀	6世紀	5世紀	4世紀	3世紀	世紀
奈良時代	飛鳥時代	古墳時代			弥生時代	時代
784 741 710 701	694 672 645 603	587 538 527	478 462 421	391～	239	年代
長岡京遷都 東大寺大仏開眼供養 国分寺建立の詔 三世一身法 平城京遷都 大宝律令制定	藤原京遷都 飛鳥浄御原宮造営 壬申の乱 乙巳の変（大化改新） 遣隋使派遣・石舞台古墳 冠位十二階定められる	蘇我氏が物部本宗家滅す 額田部皇女（推古）即位 藤ノ木古墳 見瀬丸山古墳（欽明陵か） 仏教公伝（欽明期） 今城塚古墳（継体陵か） 筑紫君磐井の反乱 継体即位	に遣使 倭王武（雄略）が中国宋 倭王興が中国宋に遣使 大仙古墳（仁徳陵古墳） 誉田御廟山（応神陵古墳） 倭王讃が中国宋に遣使 仲津山（履中陵古墳）	倭と高句麗が争う 陵古墳） 佐紀陵山古墳（日葉酢媛	桜井茶臼山古墳 邪馬台国与晋に遣使 ヤマトに箸墓古墳築造 に使いを送る 邪馬台国女王卑弥呼、魏	全国的な出来事
出雲国分寺跡 出雲国風土記編纂 山代郷南新造院 山代郷正倉	出雲国府跡造営開始 山代郷北新造院 （出雲大社修造・『日本書紀』） 山代原古墳・雨乞山古墳 山代方墳 向山1号墳	岩屋後古墳 古墳・東淵寺古墳 岡田山一号墳・御崎山 **山代二子塚古墳** 薄井原古墳 船古墳 大草岩 大庭鶏塚古墳・	大谷1号墳 竹矢岩船古墳・古曽志 金崎1号墳 井ノ奥4号墳 平所埴輪窯跡 石屋古墳・塚山古墳 廟所古墳・丹花庵古墳	岡田山2号墳 1号墳・上野1号墳 廻田1号墳・大垣大塚 奥才13号墳 寺床1号墳	名分丸山古墳 （神原神社古墳） 社日古墳 布志名大谷墳墓群 間内越墳墓群	松江周辺の遺跡など

［報告者作成］

（２）なぜ前方後方墳か

前方後円墳の時代、前方後円墳体制、などといわれる古墳時代の中で、なぜ前方後方墳なのか



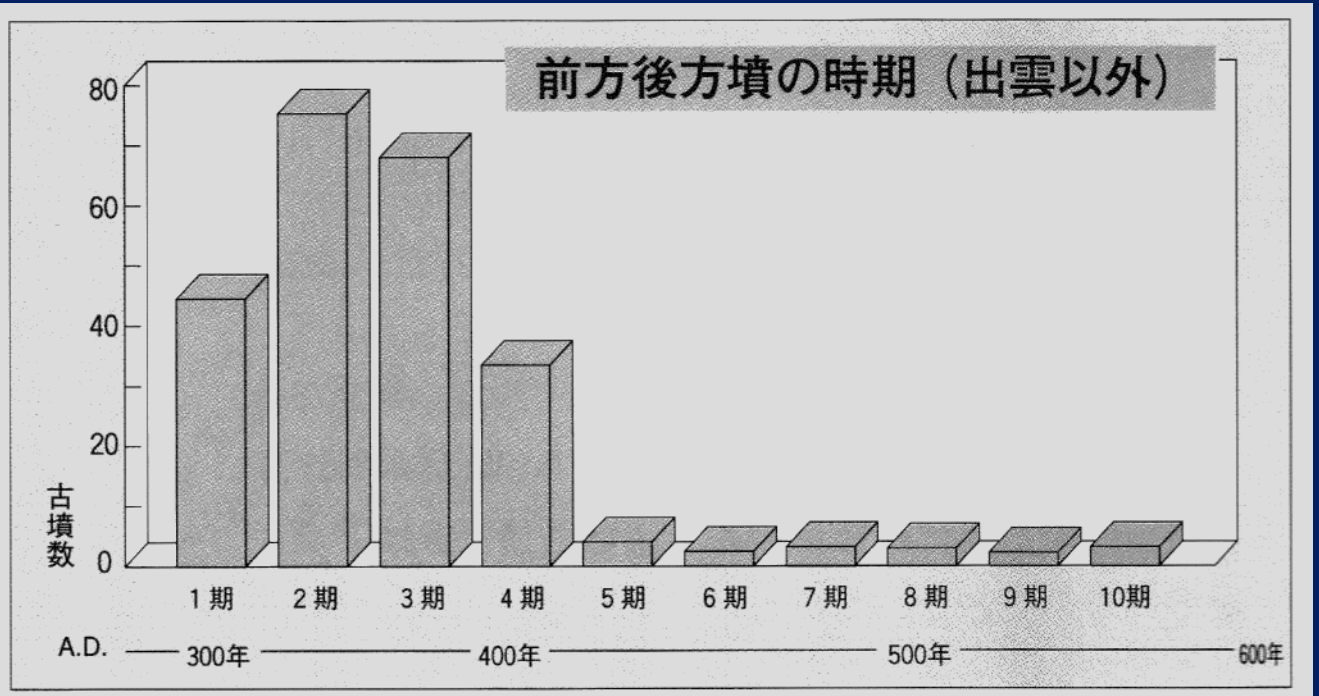
都出比呂志氏が表した古墳の概念図
［仁木聡2014『巨大方墳の被葬者像」『倭の五王と出雲の豪族』］

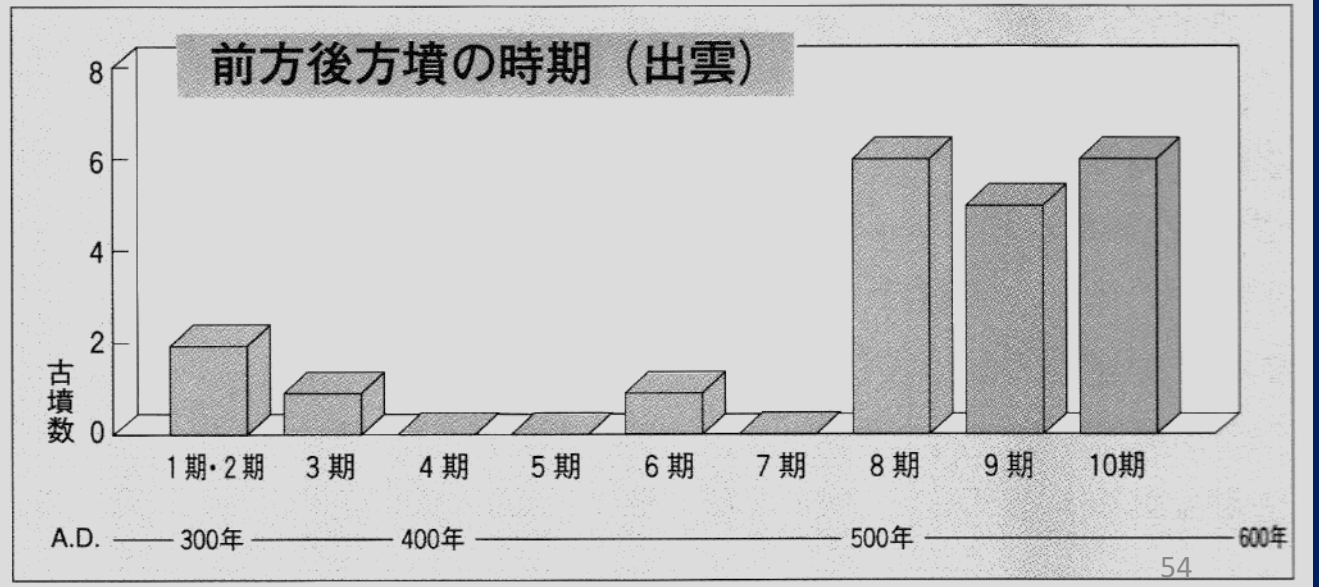
なぜ前方後方墳か

〇全国的にみると、前方後方墳が築かれるのは、大部分が古墳時代前期（3世紀後半～４世紀中ごろ）

〇あっても中期前半（５世紀前半）

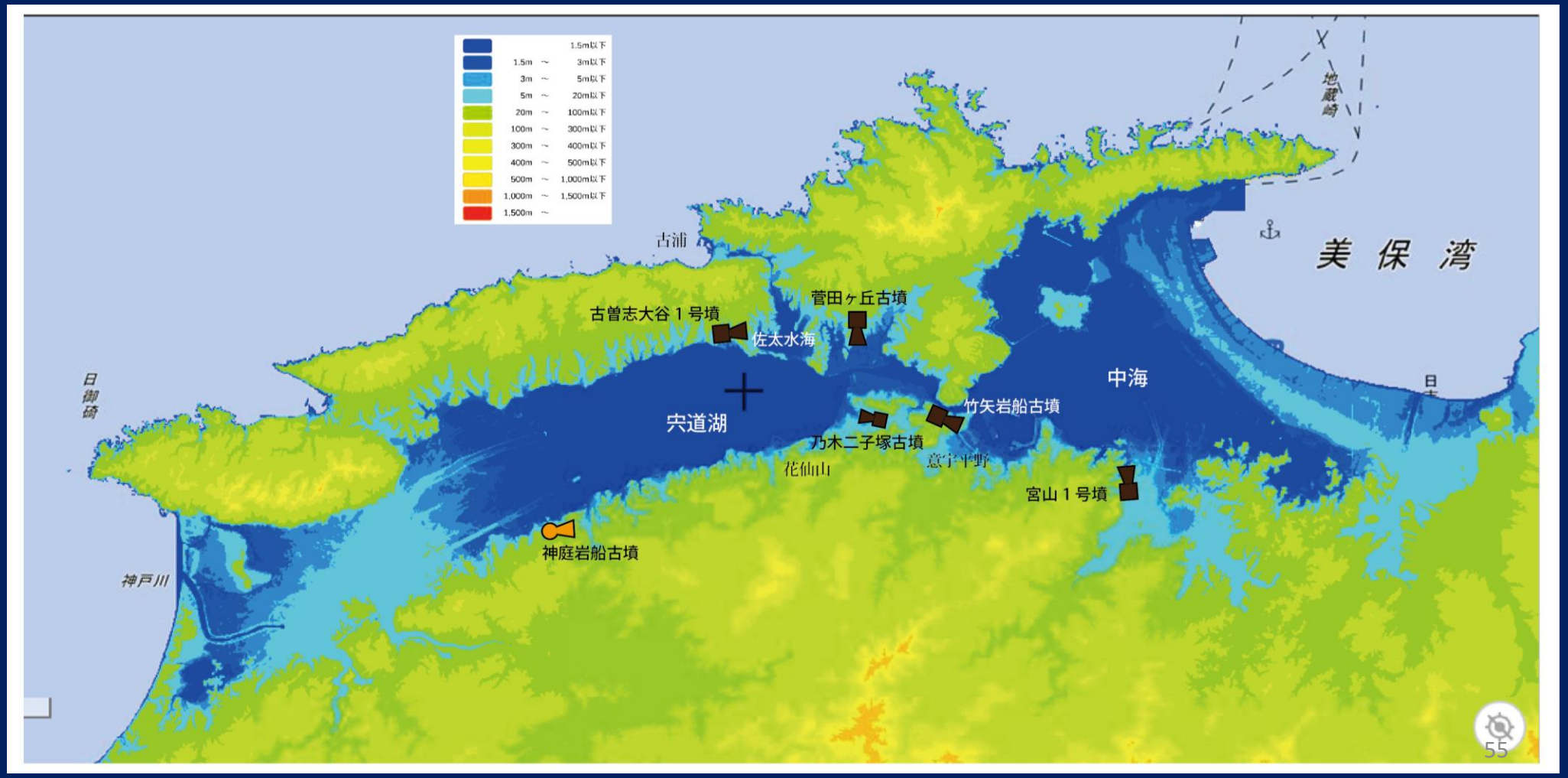
〇出雲では、古墳時代後期（５世紀末～６世紀）になって急増





［渡邊貞幸1995より］

なぜ前方後方墳か
―5世紀後半に出雲東部の首長墓が変化―

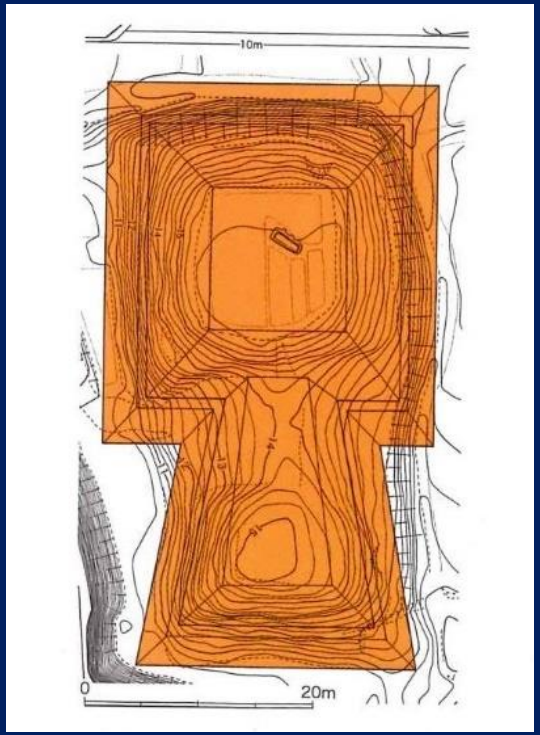


［国土地理院HPの
ものに一部加筆］

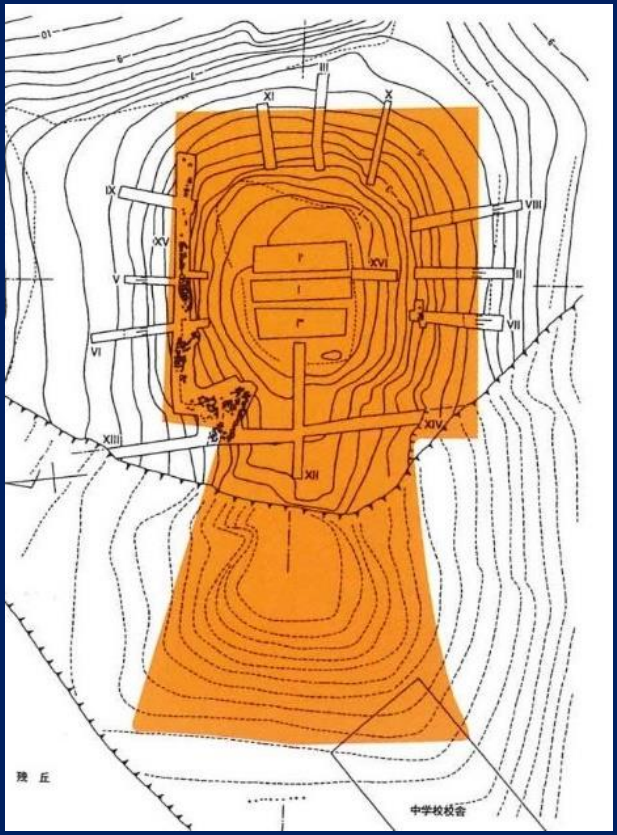
出雲独自の「前方後方墳体制」へ

- 出雲東部の首長墓は５世紀後半に、前方後方墳になる。
- いずれも５０m前後の規模

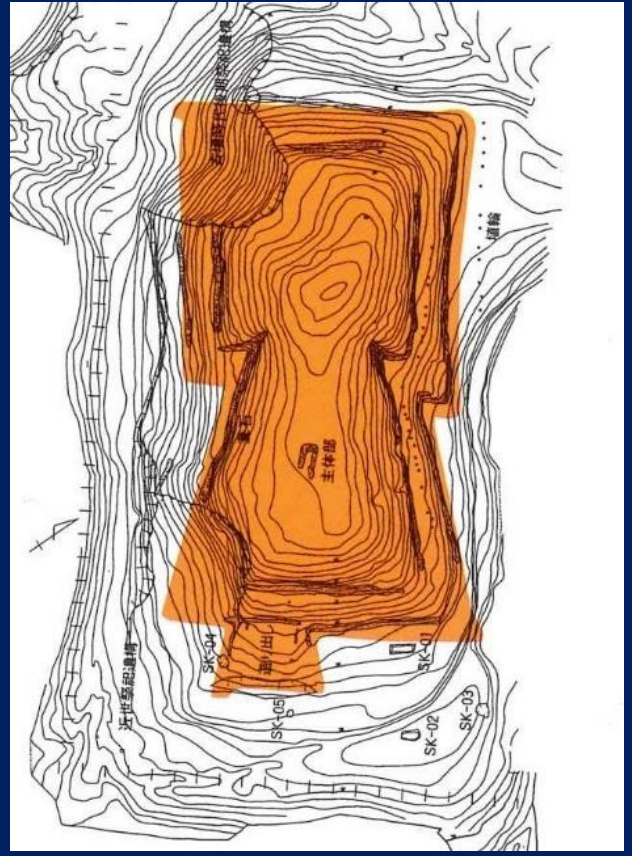
［図はいずれも島根県立古代出雲歴史博物館2014より］



竹矢岩船古墳



宮山1号墳



古曽志大谷1号墳

出雲独自の「前方後方墳体制」へ

- 地域によって小型の短小型前方後方墳も
- 前方後方墳をトップに、方墳をその下に位置付ける独自体制

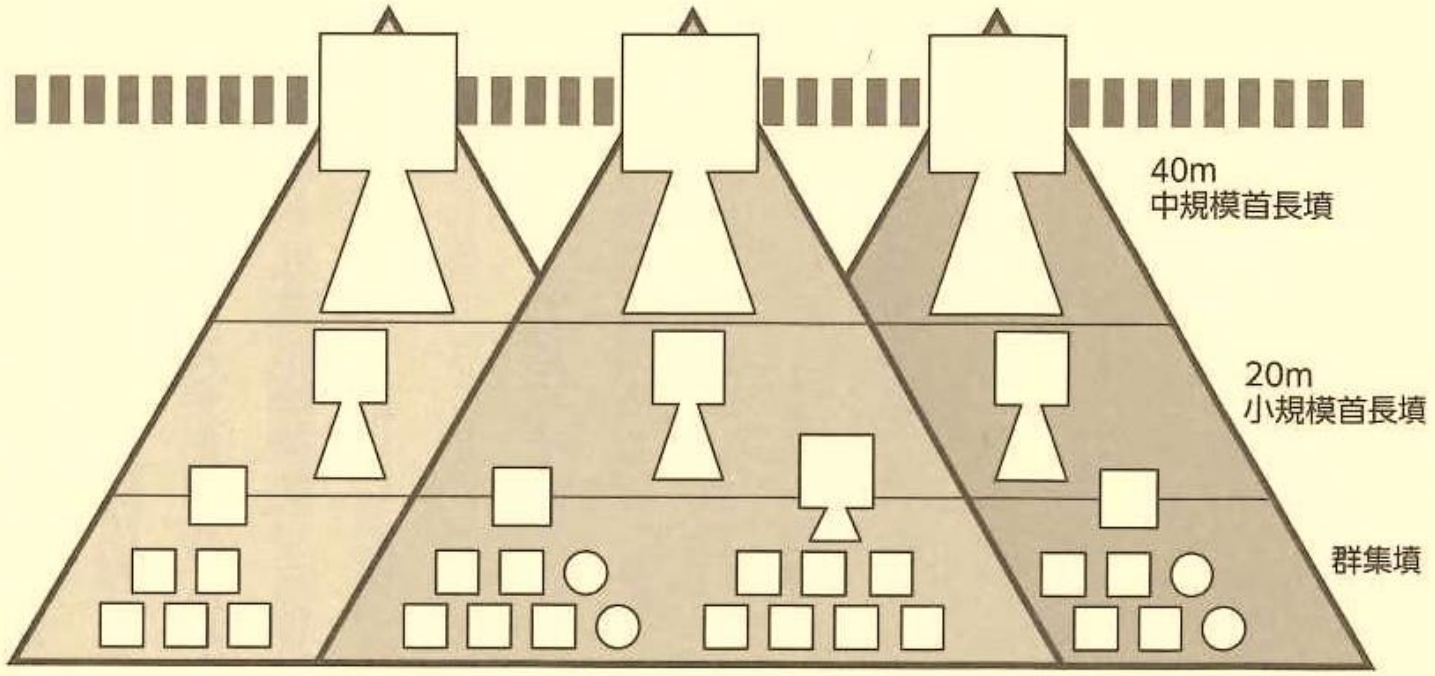


図4-25　前方後方墳体制の階層構造模式図

［松江市2015より］

（３）山代二子塚古墳の時代
ー意宇（おう）郡中心部の古墳の様相ー

- 意宇郡中心部‥‥後に出雲国府や国分寺などが置かれる中心地
  現在の松江市八雲立つ風土記の丘周辺

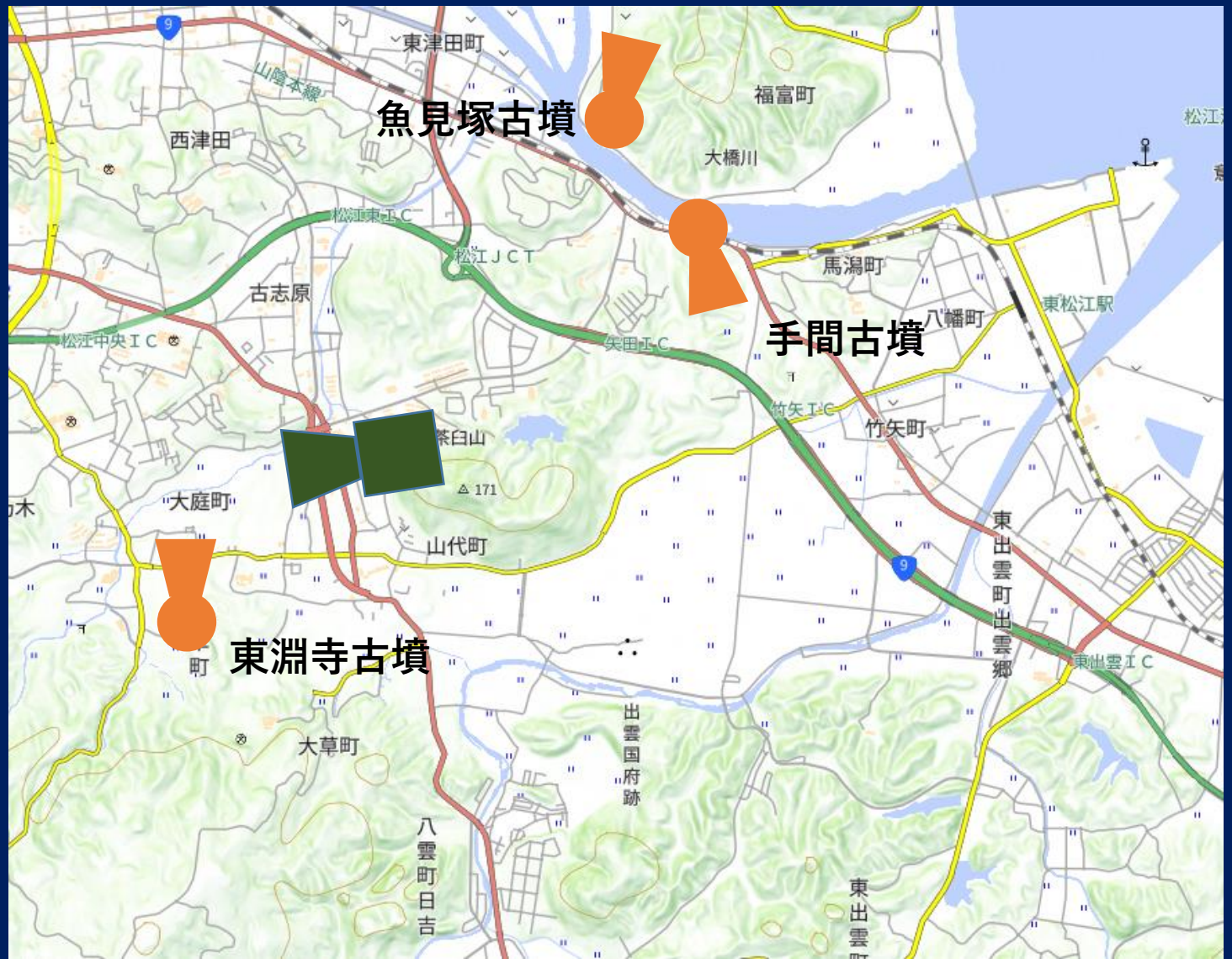
- 山代二子塚古墳築造直後に首長墓級の古墳が集中

- 前方後円墳と前方後方墳、方墳、横穴墓が混在

- 山代二子塚古墳をNO.１として、規模が階層的に分離

古墳NO.2クラスは60～70mの前方後円墳3基

- 6世紀後半の前方後円墳が意宇中心に3基

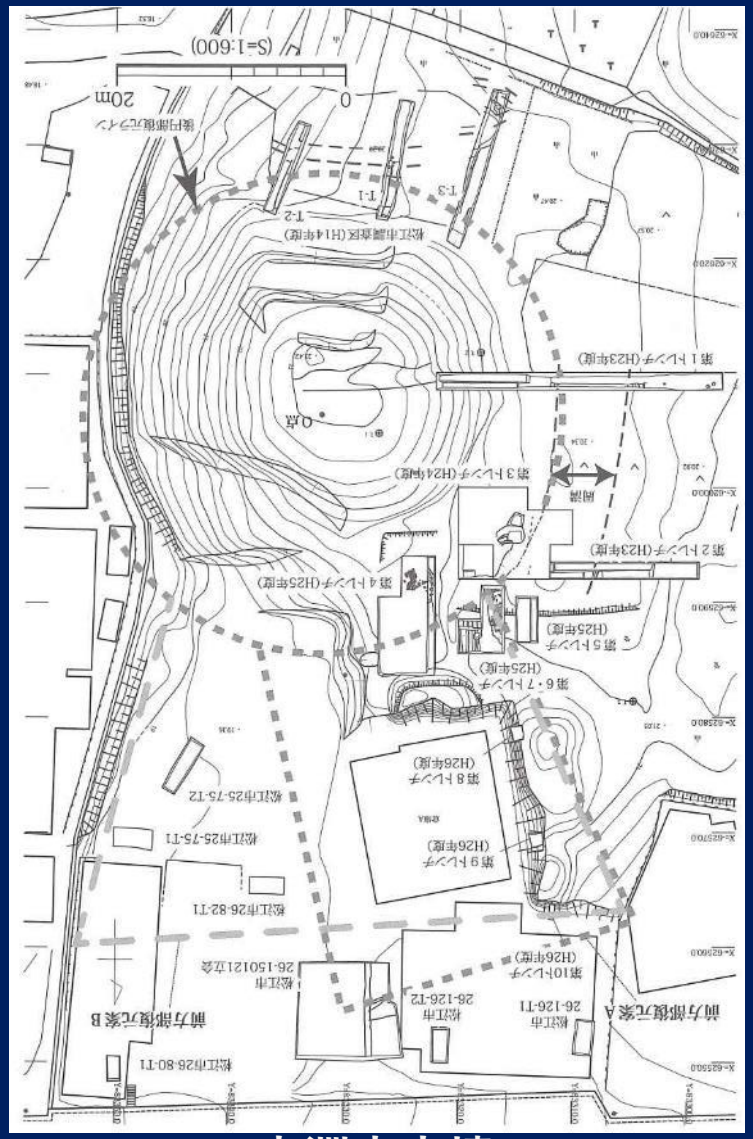


- 東淵寺古墳
- 手間　古墳
- 魚見塚古墳

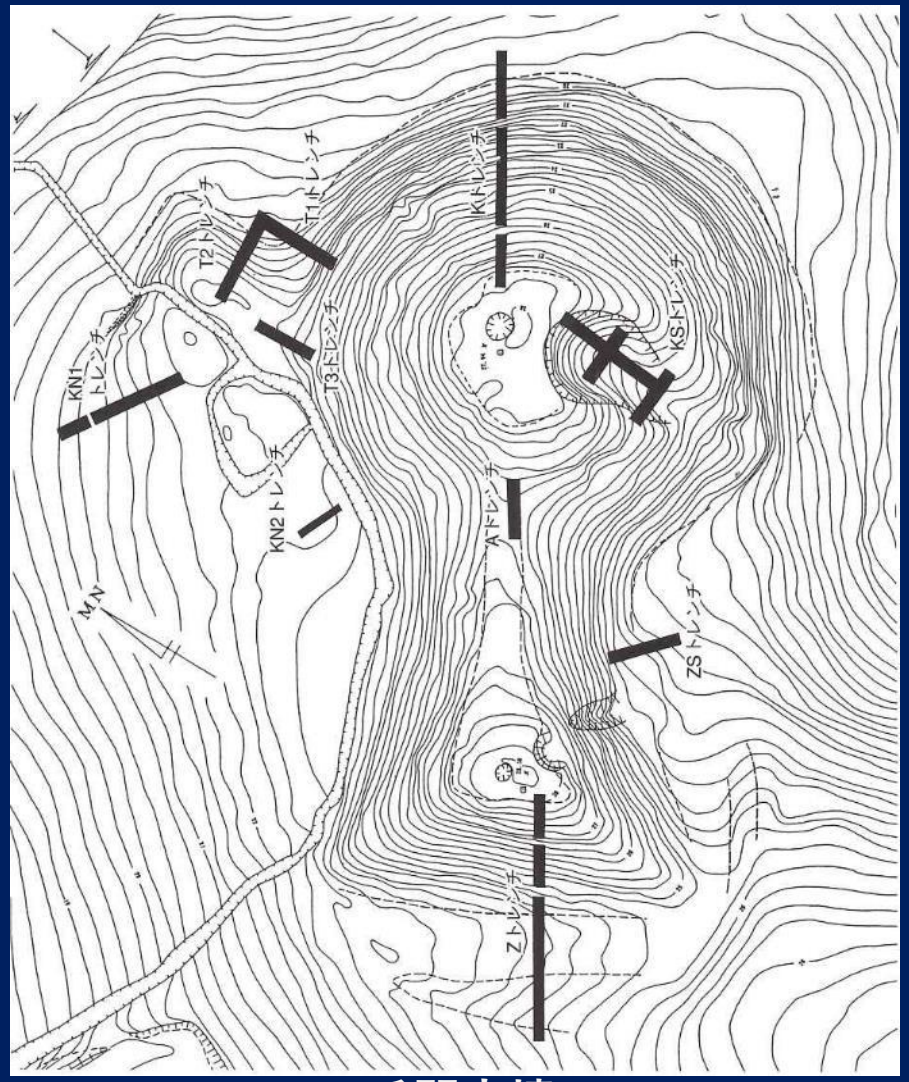
［島根県教育委員会2016より］

NO.2は３基の60m級大型前方後円墳

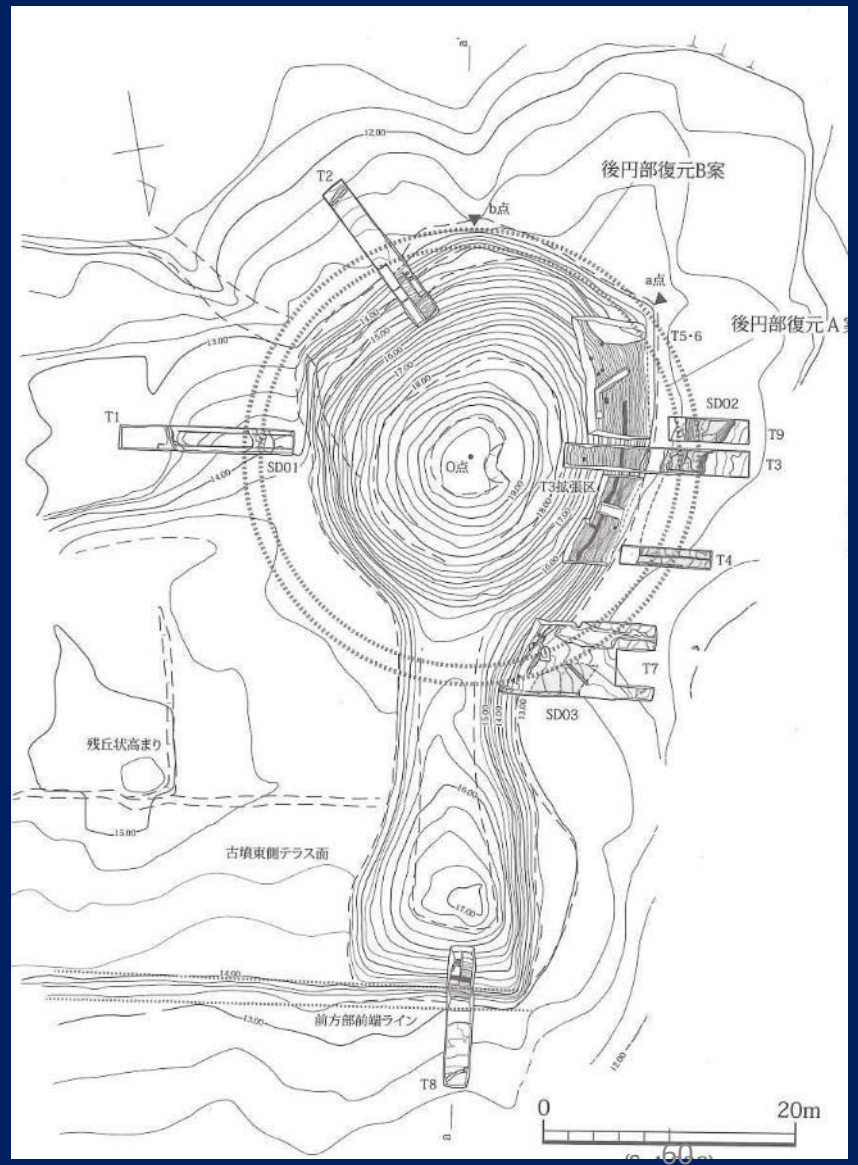
［図はいずれも島根県教育委員会 2016より］



東淵寺古墳



手間古墳

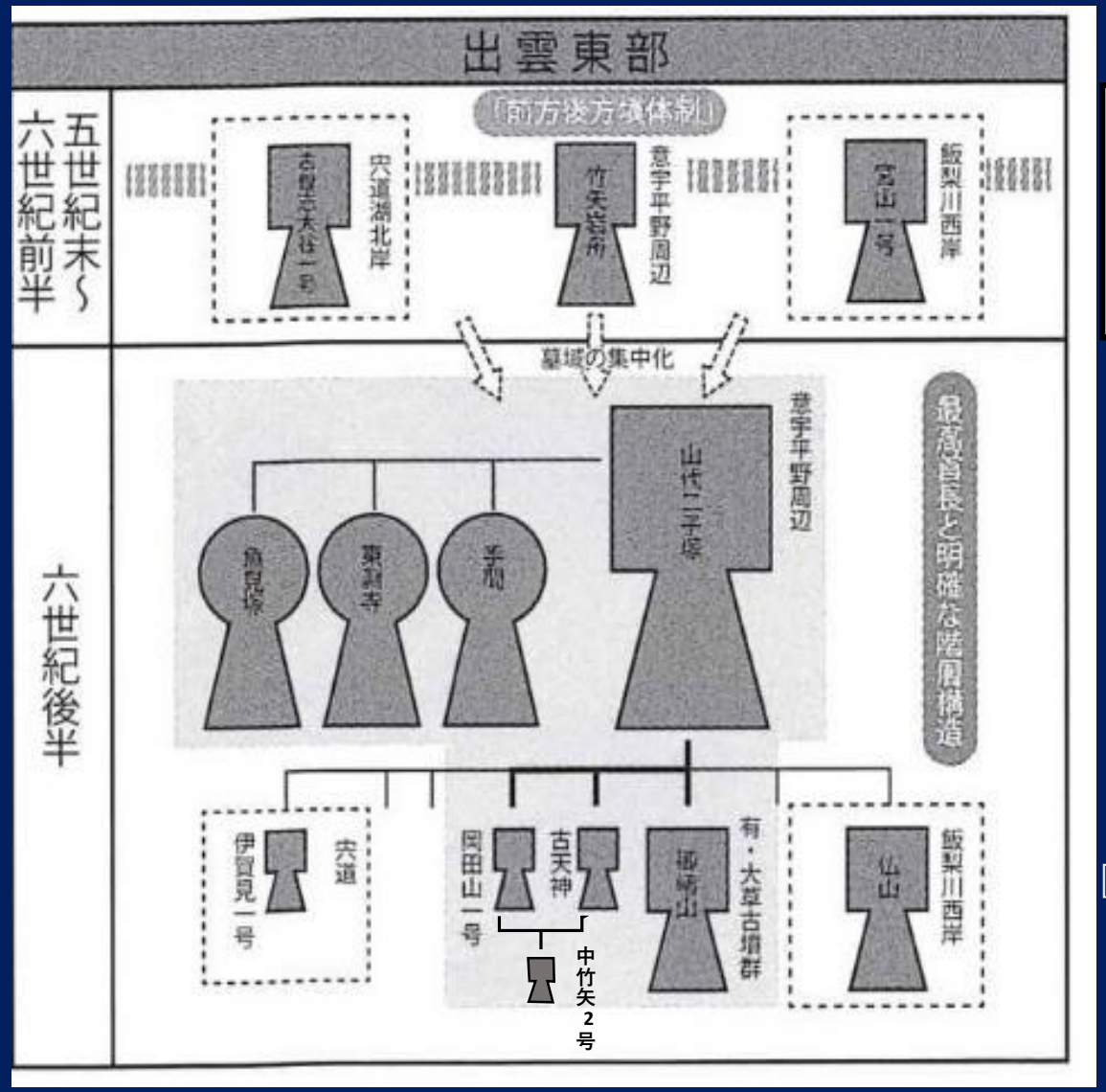


魚見塚古墳

NO.3以下は15ｍ～40mの前方後方墳、方墳、横穴墓が重層

- NO.3‥‥御崎山古墳：40mの前方後方墳、中型横穴式石室
- NO.4‥‥岡田山1号墳:24mの前方後方墳、小型横穴式石室
  古天神古墳：27mの前方後方墳、石棺式石室祖型
- NO.5‥‥中竹矢2号横穴墓:14mの前方後方墳、横穴墓
- NO.6‥‥荒神谷・後谷横穴墓群など:10m弱の方墳、横穴墓
- NO.7‥‥無墳丘の横穴墓

NO.3以下は15ｍ～40mの前方後方墳、方墳、横穴墓が重層

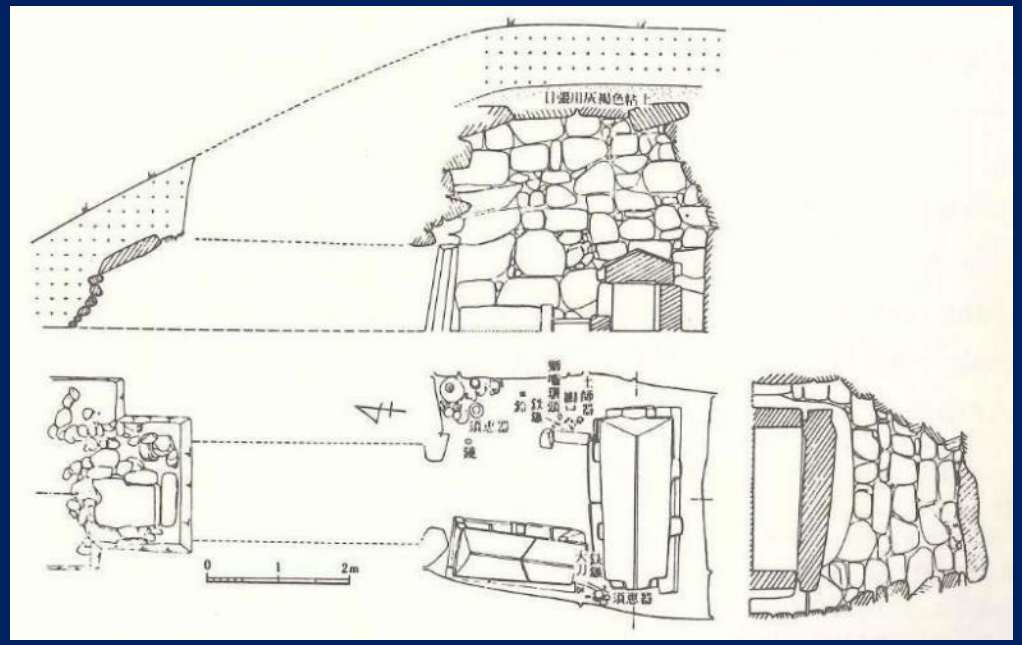


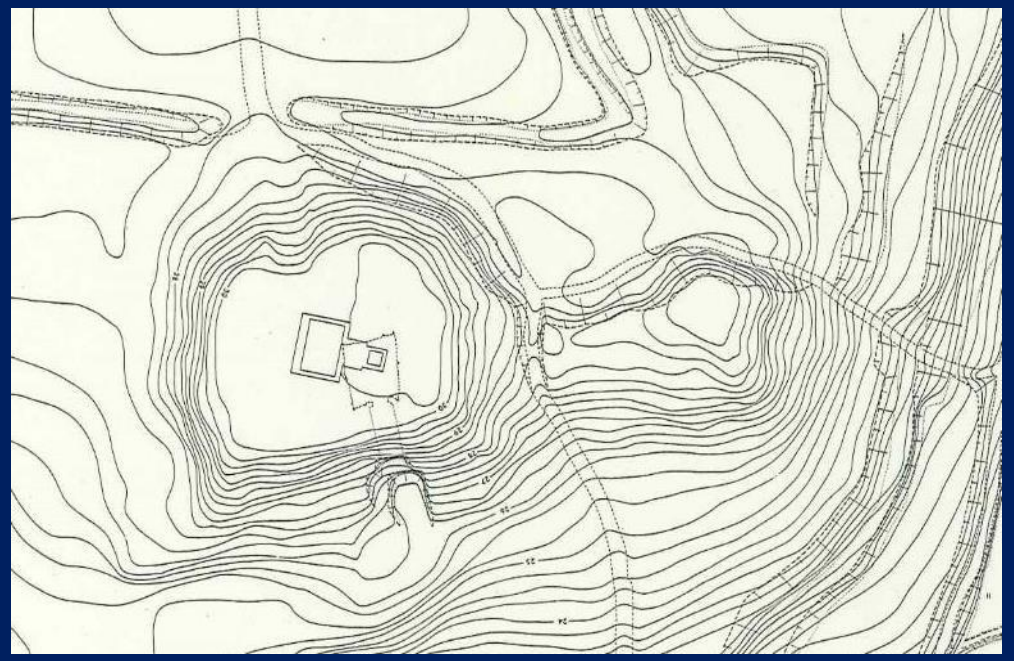
［左：報告者作成、
右：池淵俊一2017より］

NO.3の御崎山古墳

- 中型(40m)の墳丘と横穴式石室
- 横穴式石室は東部出雲では最大で九州型
- 地域首長として豪華な副葬品

［図・写真とも島根県教育委員会ほか1996より］





NO.4の岡田山１号墳

- 小型の墳丘（27m）で小型の横穴式石室
- 豪華で質の高い副葬品セット
- 「額田部臣」の象嵌入りの大刀

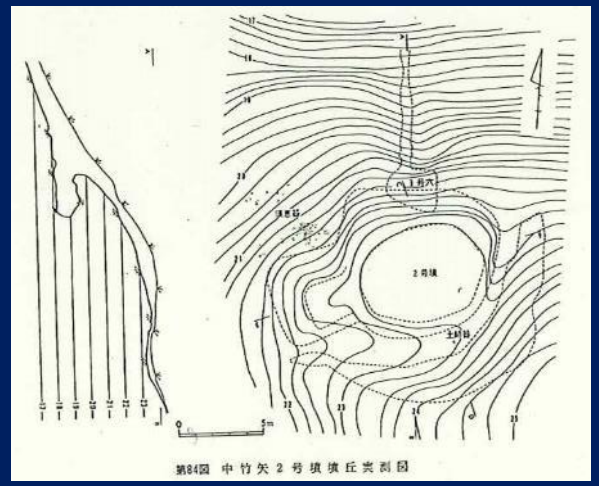
［図・資料写真ともに
島根県立八雲立つ風土記の丘2007より］

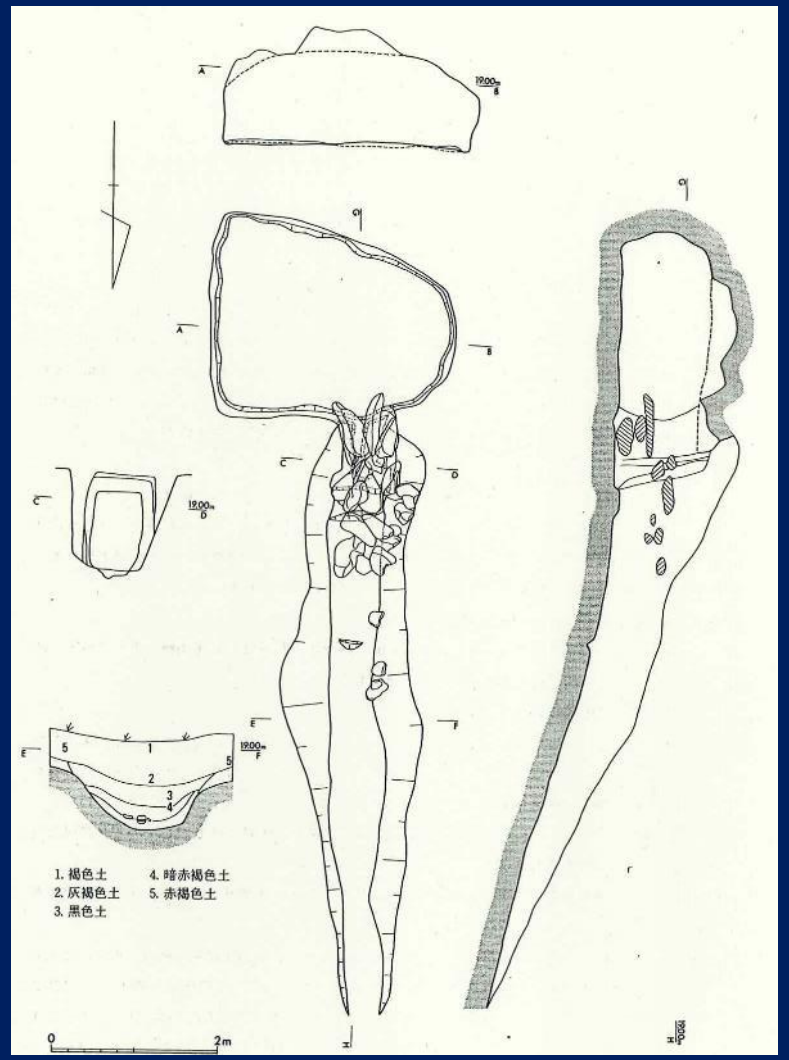
岡田山1号墳横穴式石室［八雲立つ風土記の丘提供］

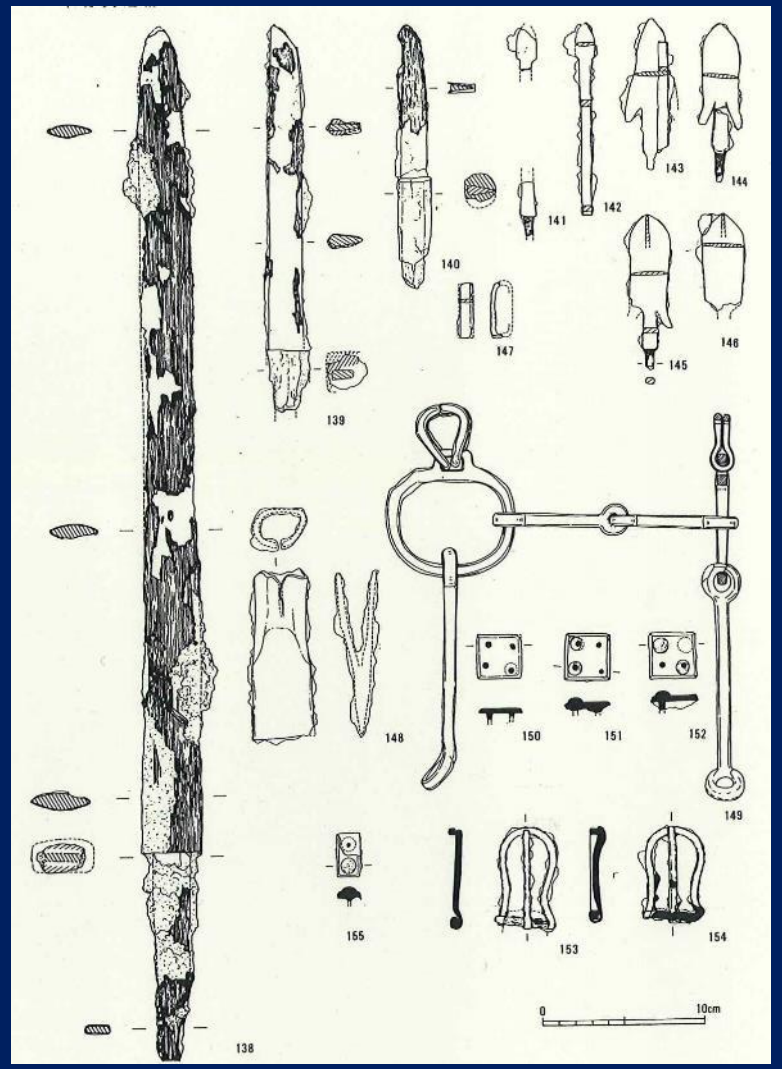
NO.5の中竹矢2号横穴墓

- 15mの超小型前方後方墳に古式の小型横穴墓
- 剣、馬具轡1セット、大型鏃、刀子、鉄斧の武器・工具1セット

［図はいずれも島根県教育委員会1983より］





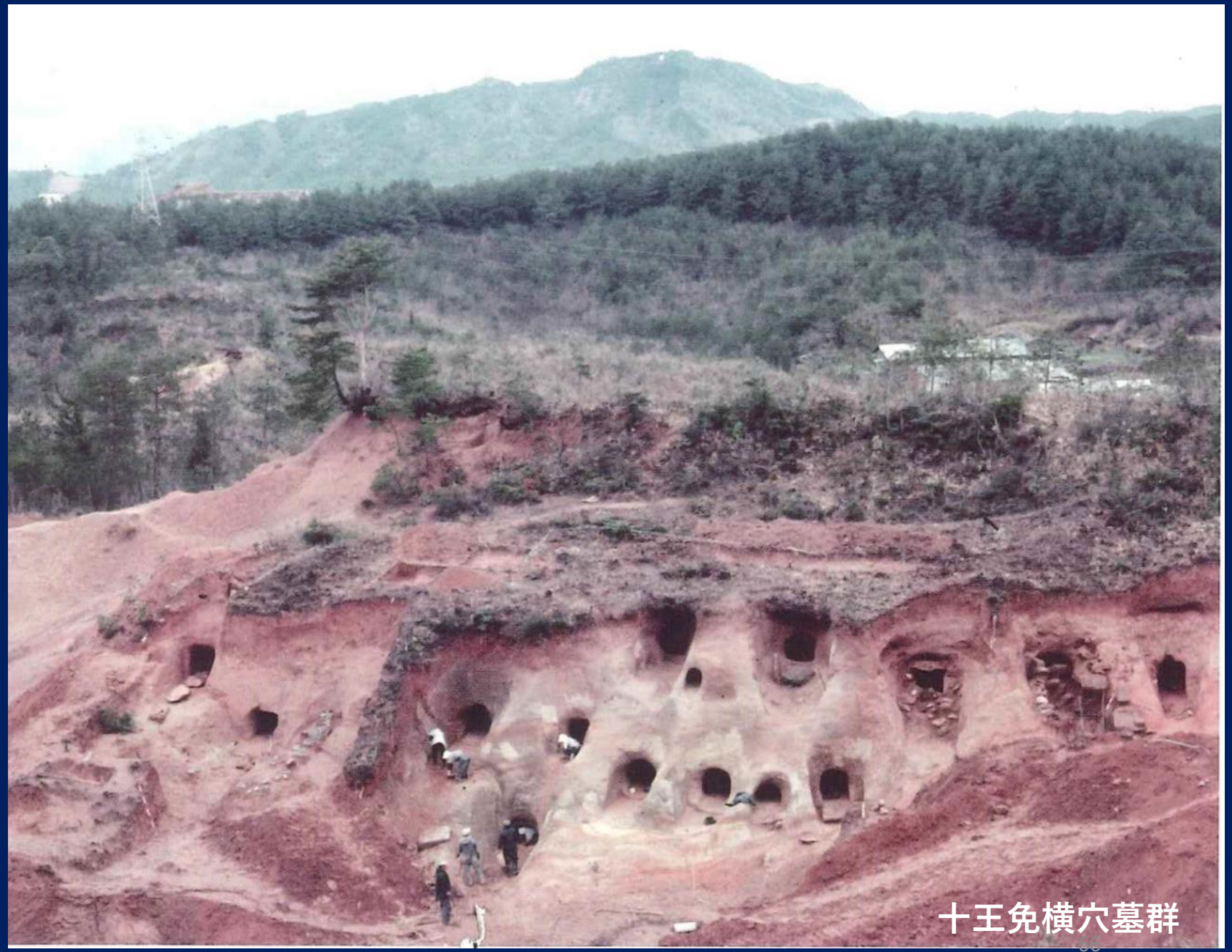


横穴墓（無墳丘）

意宇平野周辺には、大きく5か所に分かれて数多くの横穴墓が築かれている

6世紀後半～7世紀に数多くの有力農民・官人層がいたらしい

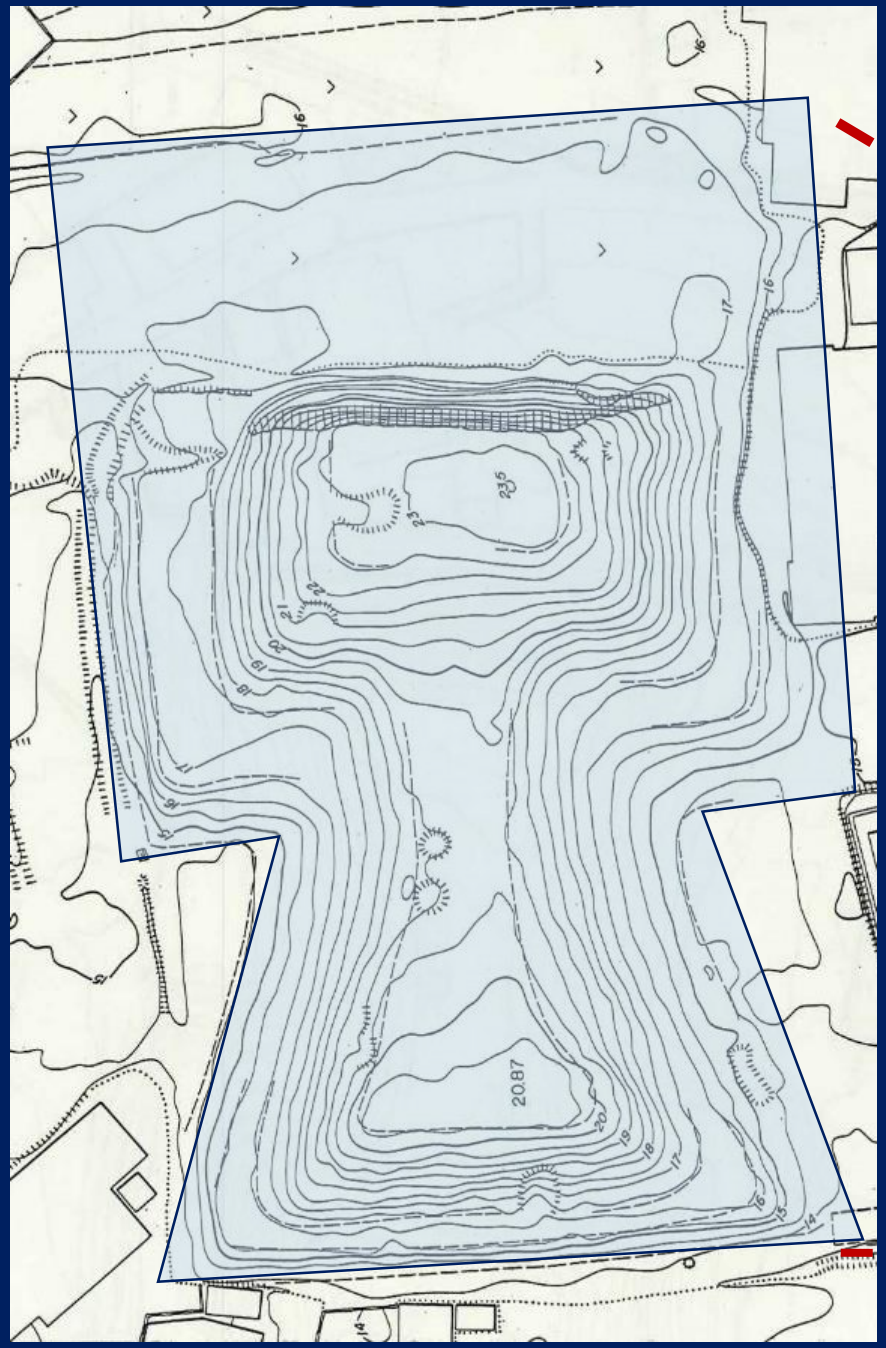
［松江市2012より］



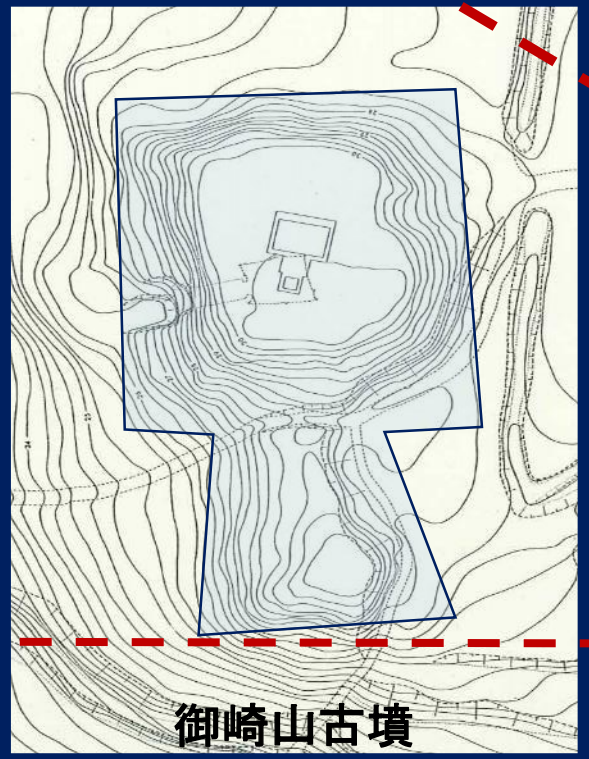
十王免横穴墓群

山代二子塚古墳とその直後の意宇中心部の古墳

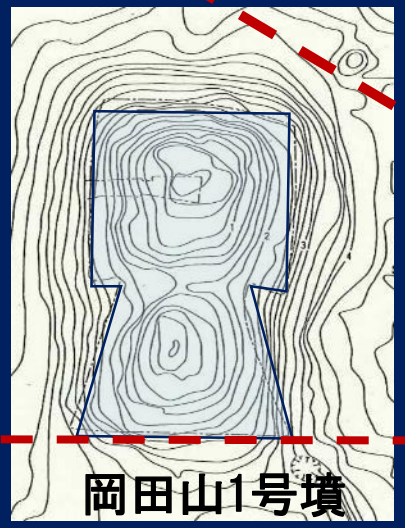
［図はいずれも島根県立古代出雲歴史博物館2018より］



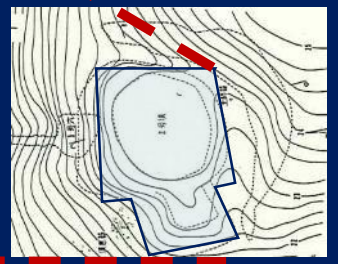
三つの前方後円墳



御崎山古墳



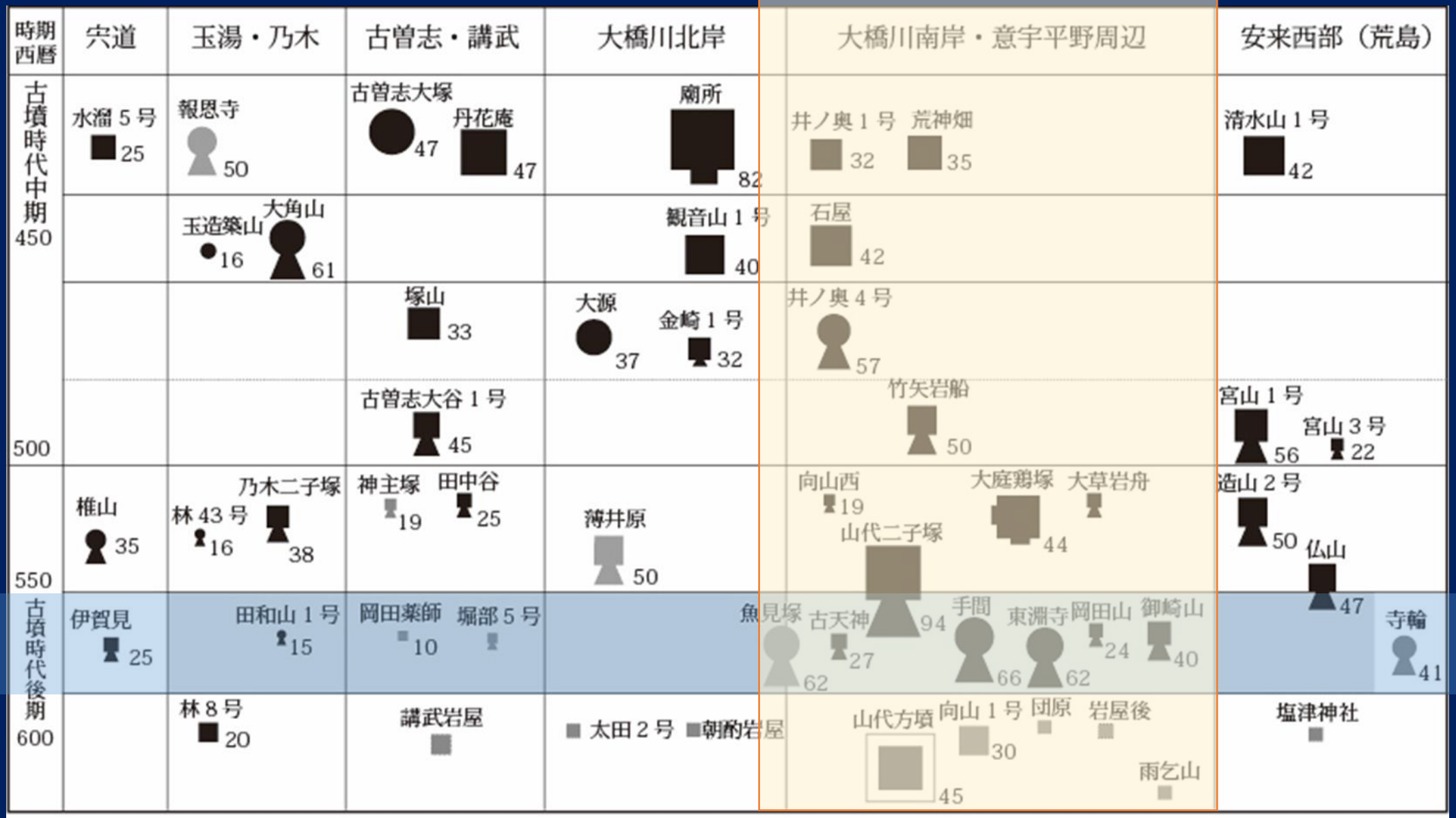
岡田山1号墳



中竹矢２号墳

山代二子塚古墳築造直後の明確な階層差と墳丘

- 意宇中心部の中での同族古墳‥‥前方後方墳・方墳
- 出雲東部（意宇中心以外）の首長‥‥意宇中心部に前方後円墳
- 意宇中心部の優位性と、それを支える周辺地域の立場を古墳で強く表現している。
- 5世紀末～6世紀初頭の、比較的差のない前方後方墳体制と対照的
- 山代二子塚古墳の突出性が際立つ



出雲東部領域に特有な原初的位階制があったのか？

［池淵俊一2017より］

（４）山代二子塚古墳に眠るのは誰か

- 『日本書紀』の天皇年紀によると、欽明朝の時代
  欽明期は、ヤマト王権の地方統治の在り方の大きな変換期
  地方の社会制度を王権統治がやりやすいシステムにする
  システムを具体化し、地方と王権との関係を明瞭にする
  ●部民制、氏族制、伴造制、国造制などの始まりor確立
  地方支配のための拠点を設置する
  ●屯倉（みやけ）の設置

- 『出雲国風土記』の郷名伝承に登場する２つの日置氏関連記載の天皇と同じ…偶然か

『出雲国風土記』の欽明天皇にかかわる記述

- 『出雲国風土記』には天皇にかかわる記載が極めて少ない
- その中で、**欽明期の具体的記載**が２か所に登場

- 「意宇郡舎人郷」（現代語訳）

（欽明天皇の御代、倉舎人君（くらのとねりのきみ）らの祖、日置臣志毘（へきのおみのしび）が大舎人として天皇に仕えた。ここは志毘の住んだところなので、舎人というのだ。）

- 「神戸郡日置郷」（現代語訳）

（欽明天皇の御代、日置（へき）の伴部が派遣され、ここに留まり「政」を行った。だから、日置というのだ。）

※現代語訳は、吉松大志2024『古代国家の形成と出雲国の誕生』より引用

（４）山代二子塚古墳に眠るのは誰か

- 6世紀半ば：欽明朝期の画期と同調
- 「国造制」のはじまり、あるいは確立
- 国造任命を機に、意宇中枢一族（後の出雲臣）とその頭領を明示

- 山代二子塚古墳に眠るのは

初代（出雲）国造　　と考えたい（渡邊貞幸先生）

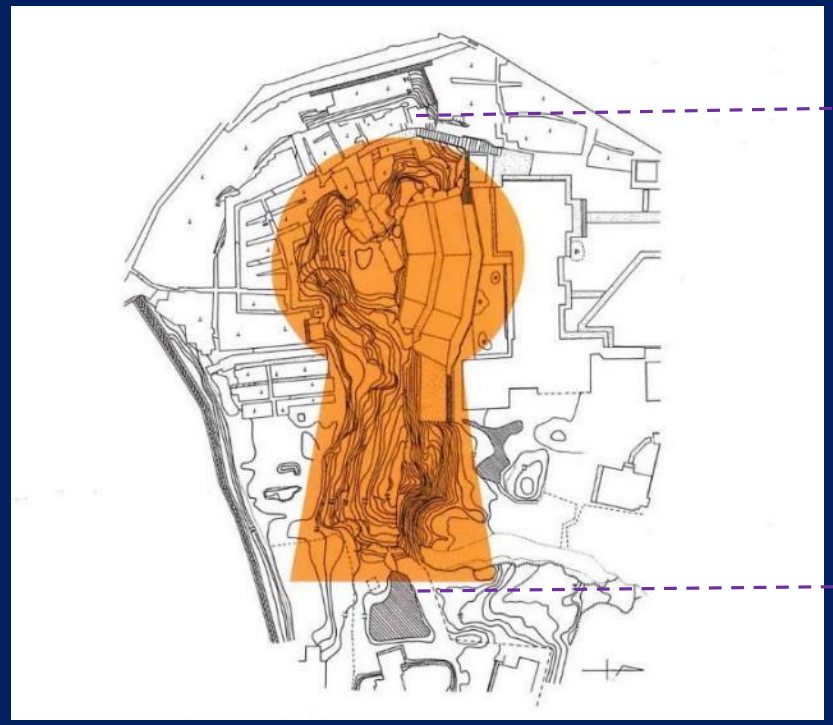
国造とは　ヤマト王権から任命された地方長官

国造とは
　古墳時代より続くその地方を支配する地方豪族が任じられ、旧来と同様に、その国内で軍事権（国造軍）、行政権、裁判権などを担った。（ウィキペディア）

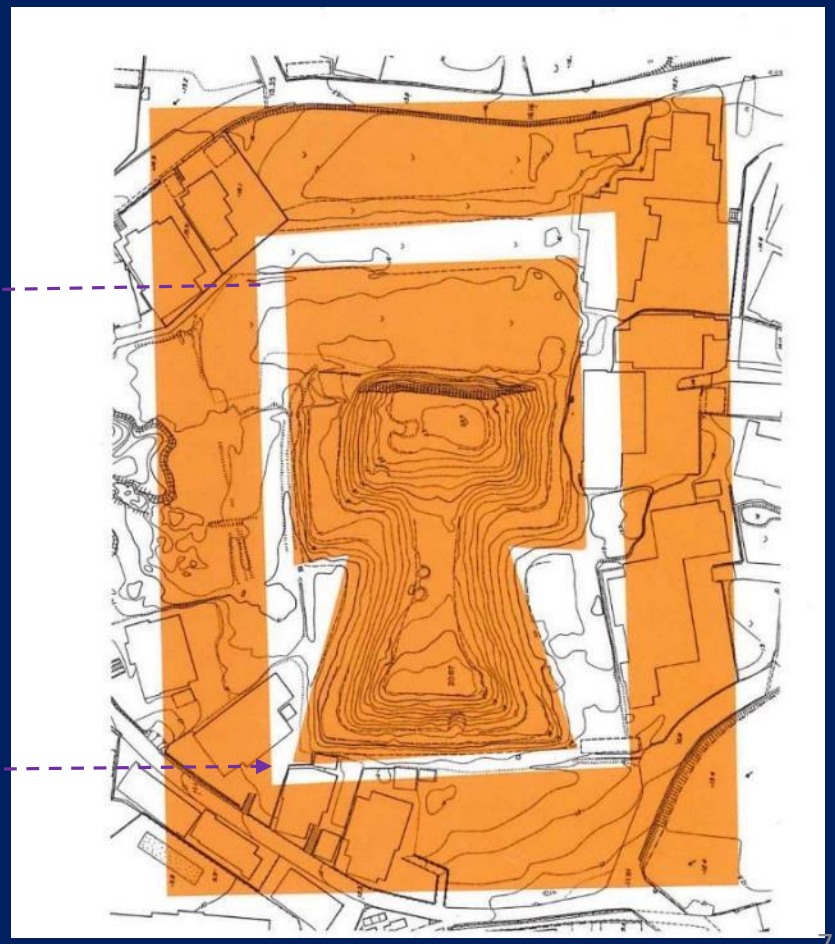
（５）西部出雲の勃興

- 山代二子塚古墳とほぼ同じ時期に、出雲西部斐伊川・神戸川流域に、全長92mの前方後円墳、大念寺古墳が築かれる
- 巨大な石室と石棺

（石棺は見瀬丸山古墳の石棺と同規模）



大念寺古墳墳丘測量図



山代二子塚古墳墳丘測量図

［図はともに島根県立古代出雲歴史博物館2018より］

6世紀後半の大型前方後円（方）墳

〇見瀬丸山古墳（欽明大王の真陵か）が傑出し、国境の関東や北部九州に集中

〇近国、中国では吉備と出雲のみに大型前方後円（方）墳

〇ヤマト王権と立場を違えど、親密な関係

［島根県古代文化センター2019より］

大念寺古墳の出現

- 5世紀～6世紀前半、目立った古墳が造られていない出雲西部
- 集落も途絶えている
- 突然現れる巨大墳丘と横穴式石室
- 山代二子塚古墳の対抗勢力か？

［図・写真ともに
島根県立古代出雲歴史博物館2018より］

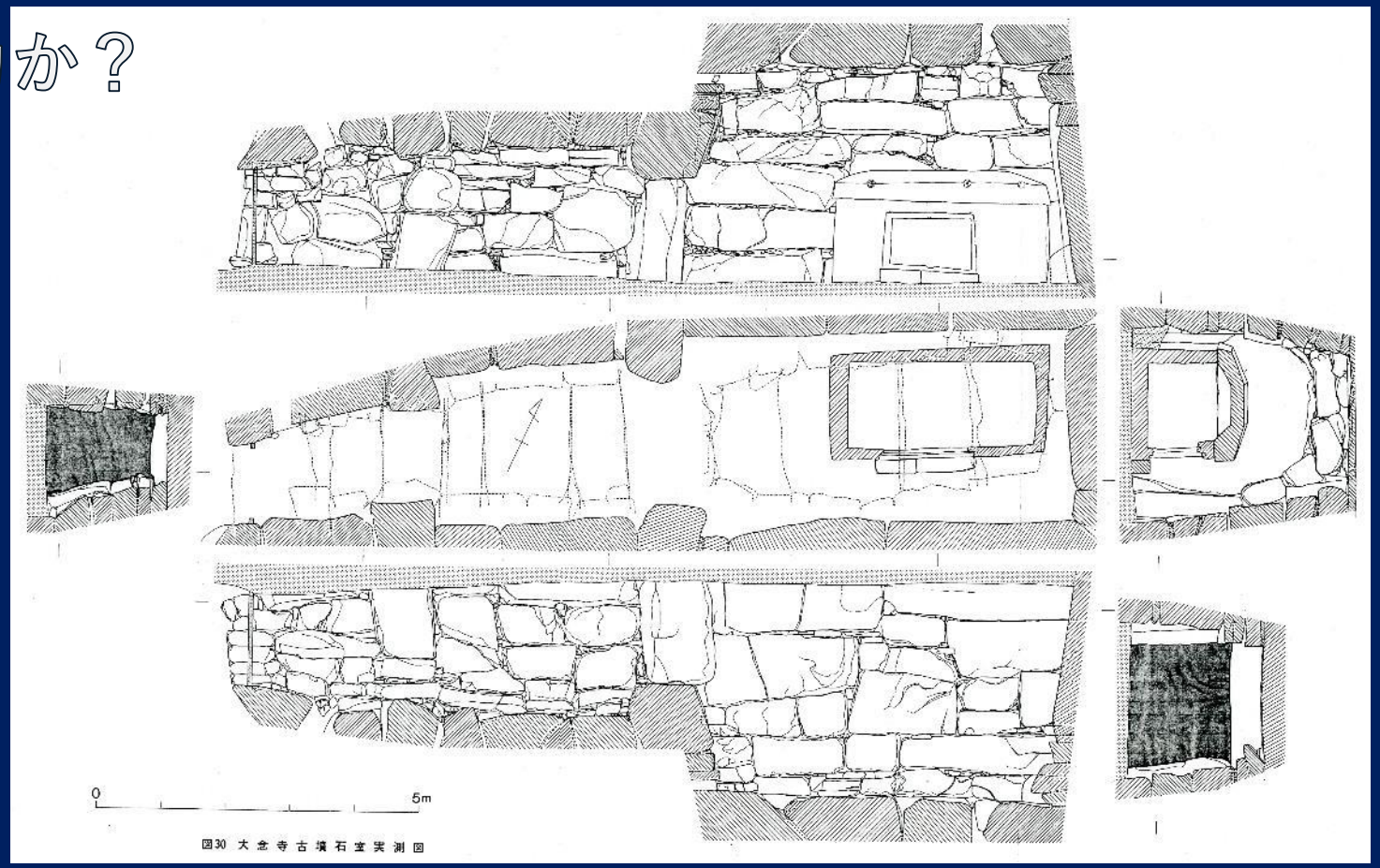
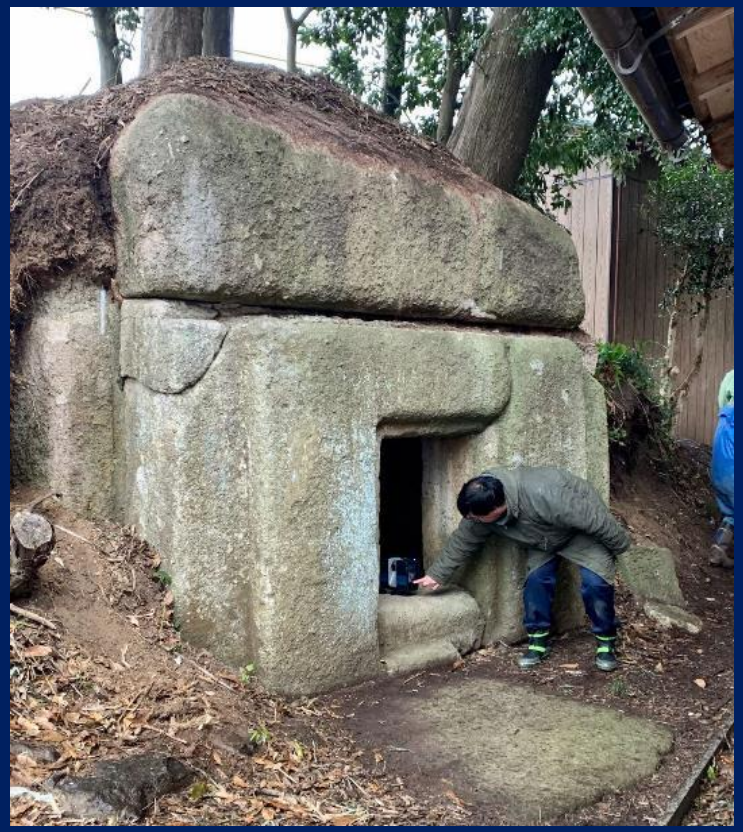
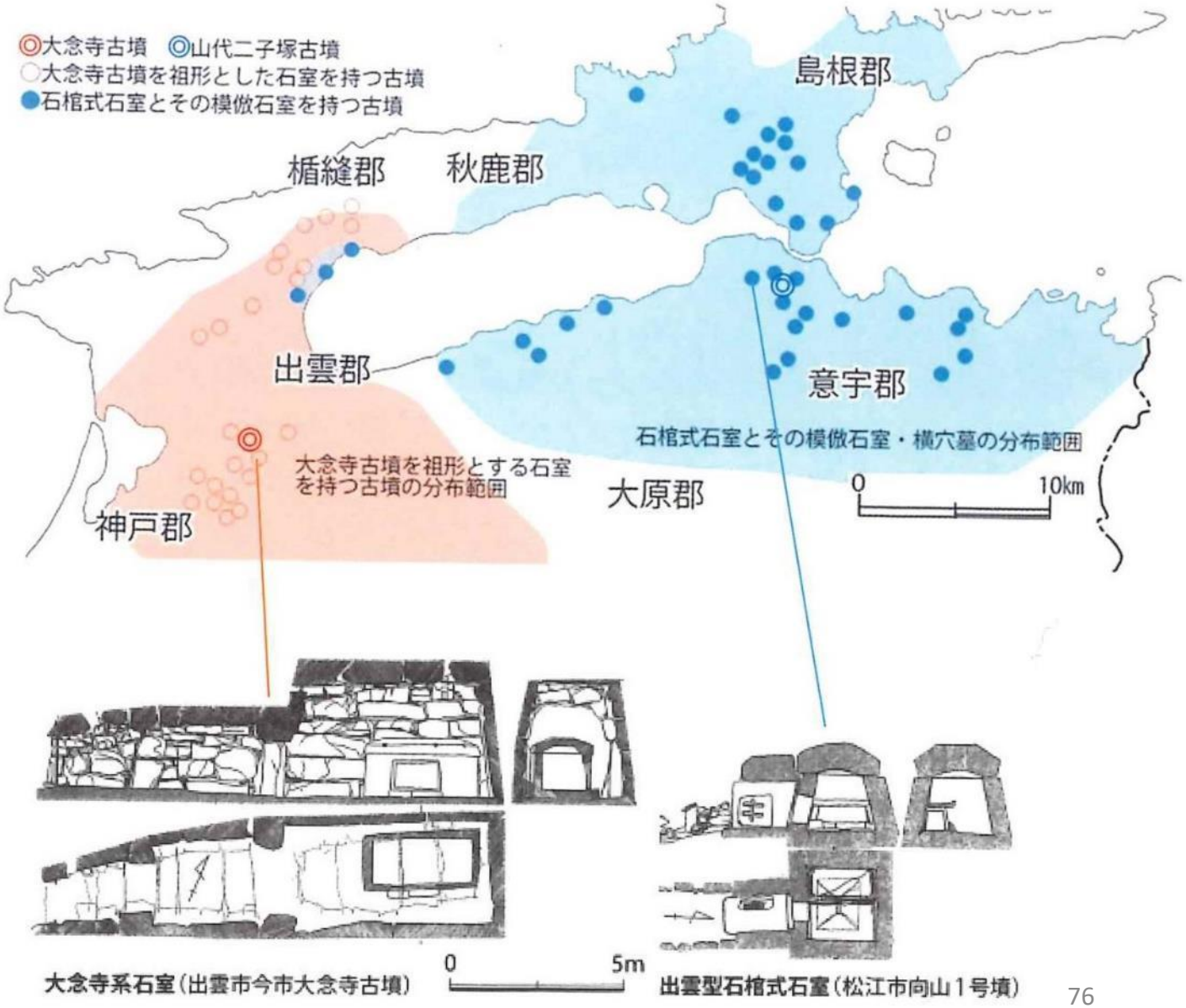


図30 大念寺古墳石室実測図

その後も続く東西の古墳の違い



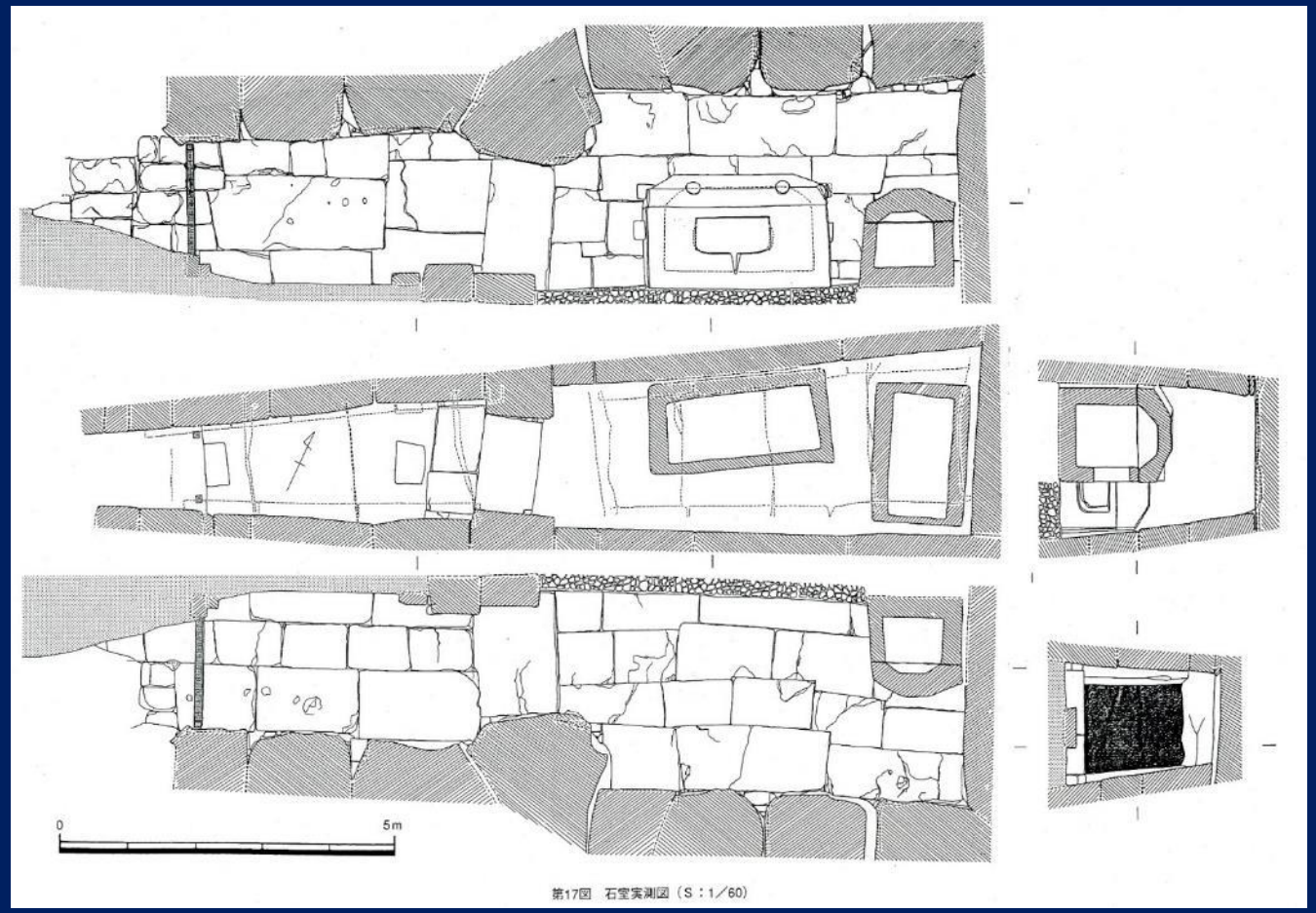
出雲型石棺式石室（山代原古墳）



［島根県立古代出雲歴史博物館2018より］

大念寺古墳の次の広域首長墓　上塩冶築山古墳

［図・写真ともに
島根県立古代出雲歴史博物館2018より］



第17図　石室実測図（S：1／60）

出雲東部と西部の背景の違い

- 東部（意宇中心）は、4世紀から連綿と大型古墳が続く
- 西部（神門郡）は、大念寺古墳以前に大型古墳がない

意宇中心部は伝統的地域勢力が結束強化

西部神門勢力は、大きな権力をバックに新たな開発と想定

西部神門地域は、屯倉的な王権界隈の拠点開発か

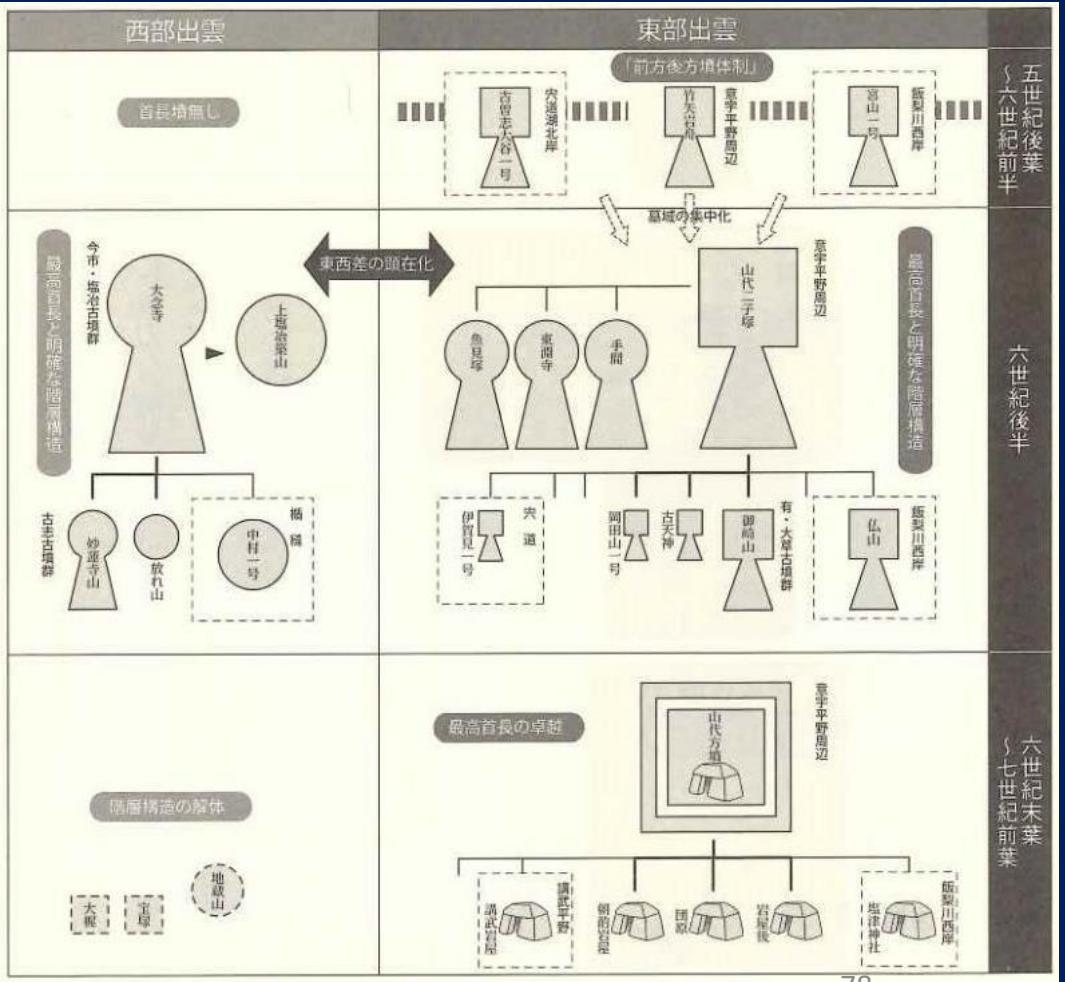
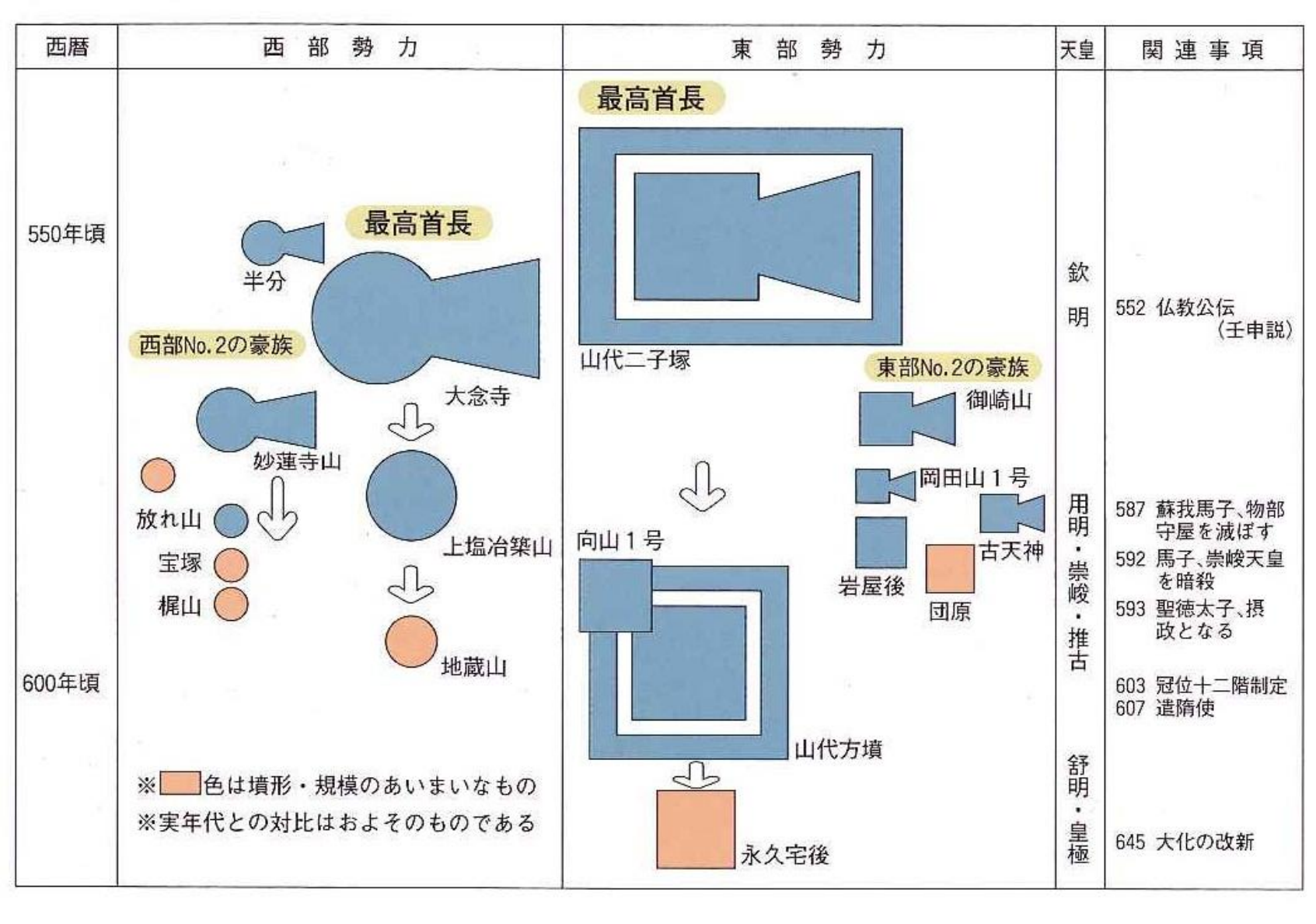


図4-29　東西出雲における首長権構造の変化

［松江市2015より］

7世紀ころから東部の古墳が優位となる



[島根県立古代出雲歴史博物館 2018より]

(5)「出雲国」の成立

- 出雲国の確実な成立は7世紀
- 山代二子塚古墳の子孫たちが「出雲国造出雲臣」一族となる。
- 出雲西部は、杵築大社とセットで出雲の地名がつけられる。

（『出雲国風土記』では出雲郡出雲郷は現在の斐川町西部）

- 二つの出雲は歴史的に、どのような形で「出雲国」になったか

- 山代二子塚古墳は、律令制国「出雲」の第一歩
- その後の6世紀末から7世紀前半が、出雲誕生のカギを握る

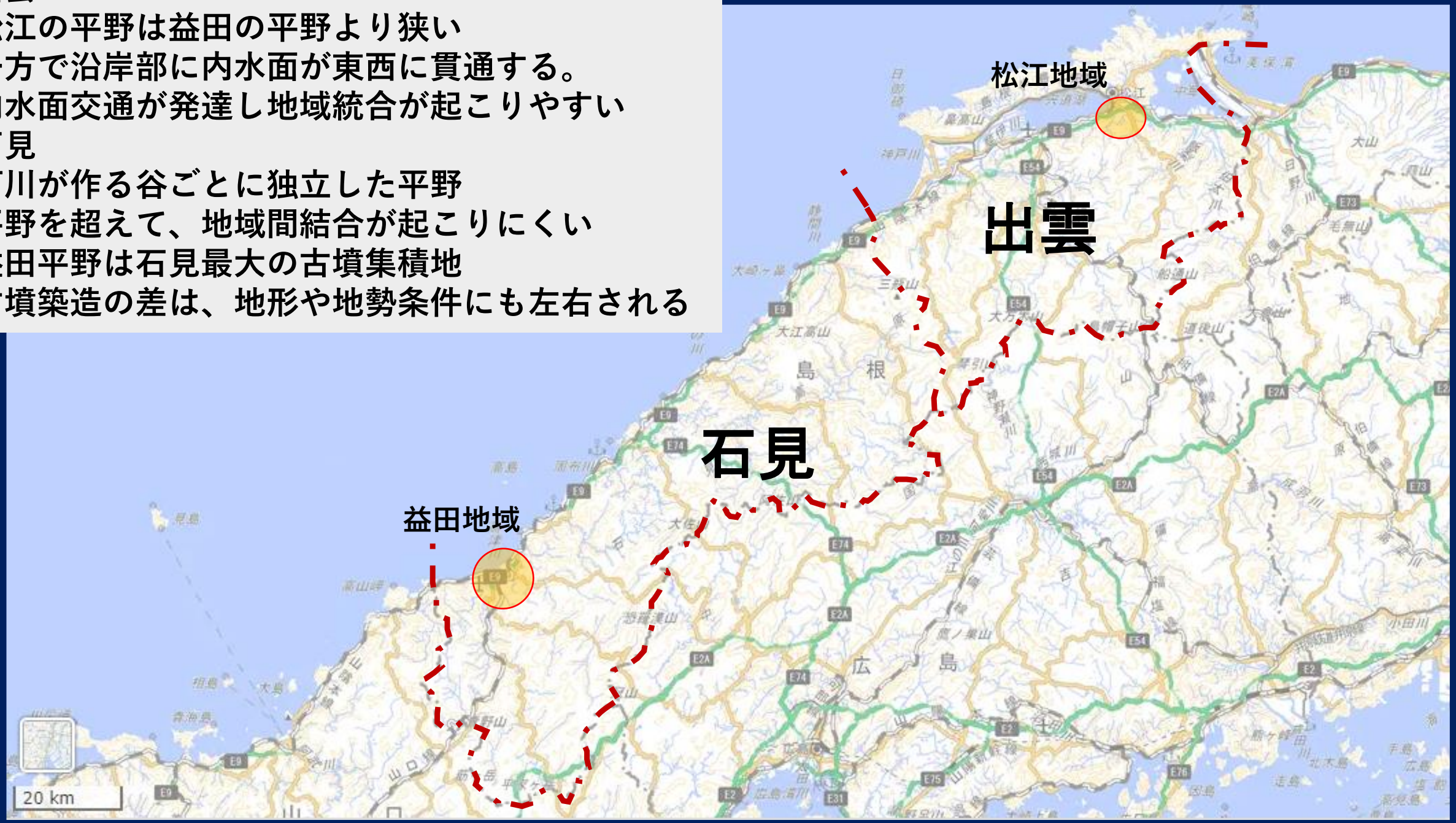
４．石見の後期古墳と出雲の後期古墳

- 益田地域では、連続した平野の中で、中規模集団が二つ出現
- 一つは、古墳時代前期から続く伝統的豪族集団
- 一つは６世紀後半に開発に入った、屯倉に奉仕する集団か

- 松江地域は前期後半から連続して首長墓を築造（石見は断続的）
- 特に南部は、６世紀半ばから広域をまとめる国造的首長出現
- 一方、出雲西部（出雲市付近）には新たに開発に入った屯倉的

- 石見と出雲は地理的にも地勢的にも大きく異なる

〇出雲
　松江の平野は益田の平野より狭い
　一方で沿岸部に内水面が東西に貫通する。
　内水面交通が発達し地域統合が起こりやすい
〇石見
　河川が作る谷ごとに独立した平野
　平野を超えて、地域間結合が起こりにくい
　益田平野は石見最大の古墳集積地
〇古墳築造の差は、地形や地勢条件にも左右される



主要な参考文献

池淵俊一・丹羽野裕2008「附編　益田市スクモ塚古墳の測量調査」『大垣大塚古墳』島根県教育庁古代文化センターほか

池淵俊一2017『古墳時代史にみる古代出雲成立の起源』松江市ふるさと文庫18

池淵俊一2019a「考古資料からみた出雲東部における国造制・部民制成立期に関する覚書」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター

池淵俊一2019b「出雲平野における6・7世紀の水利開発とその評価」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター

池淵俊一2021「水利開発と地域権力」『考古学研究』68－3　考古学研究会

大谷晃二2019「出雲地方の横穴式石室・石棺・横穴墓の諸形態とその評価」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター

国立歴史民俗博物館2020『中世益田現地調査成果概報』Vol.3

島根県教育委員会1983『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』４

島根県教育委員会1992『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告Ⅶ－山代二子塚古墳―』

島根県教育委員会2001『山代二子塚古墳整備事業報告書』

島根県教育委員会2016『魚見塚古墳・東淵寺古墳発掘調査報告書』

島根県教育委員会ほか1996『八雲立つ風土記の丘研究紀要３　御崎山古墳の研究』

島根県古代文化センター2014『解説　出雲国風土記』

島根県古代文化センター2019『国家形成期の首長権と地域社会構造』

島根県古代文化センター2023『出雲国風土記－校訂・注釈編－』

島根県古代文化センターほか2015『益田市内における古墳の調査　金山古墳・鵜ノ鼻古墳群・北長迫横穴墓群』

島根県立古代出雲歴史博物館2014『倭の五王と出雲の豪族』

島根県立古代出雲歴史博物館2018『古墳は語る　古代出雲誕生』

島根県立八雲立つ風土記の丘2007『常設展示図録　古代出雲の中心地　意宇』

中司健一編2023『中世武士団展　益田市版』益田市教育委員会

林正久2000「益田平野の古地理の変遷」『中世今市船着場跡文化財調査報告書』益田市教育委員会

平石充2019「出雲地域におけるミヤケについて」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター

益田市教育委員会1984『鵜ノ鼻古墳群発掘調査概報』

益田市教育委員会1992『北長迫横穴群発掘調査概報』

益田市教育委員会2000『中世今市船着場跡文化財調査報告書』

益田市教育委員会2019『大元古墳群発掘調査報告書』

益田市教育委員会2024『スクモ塚古墳発掘調査報告書』

松江市2012『松江市史　史料編２　考古資料』

松江市2015『松江市史　通史編1　自然環境・原始・古代』

弥冨熊一郎1952『益田町史』上巻　益田公民館

弥冨熊一郎1962『益田市史』

吉松大志2024「古代国家の形成と出雲国の成立－大王権の確立と部民制の進展」『松江市ふるさと文庫』34　松江市

渡邊貞幸1983「松江市山代二子塚古墳をめぐる諸問題」『山陰文化研究紀要』第23号

渡邊貞幸1985「松江市山代方墳の諸問題」『山陰地域研究』第１号　島根大学山陰地域研究総合センター

渡邊貞幸1986a「大念寺古墳の歴史的位置 」『島根考古学会誌』第3集　島根考古学会

渡邊貞幸1986b「山代・大庭古墳群と５・６世紀の出雲」『山陰考古学の諸問題』山本清先生喜寿記念論文集刊行会

渡邊貞幸1987「古墳時代の出雲」『季刊　明日香風』

渡邊貞幸1995「出雲の方墳・出雲の前方後方墳」『古代出雲文化展』展示図録　島根県教育委員会